



高文連

第 9 号



山口県高等学校文化連盟

高文連

第 9 号

も く じ

あいさつ	1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告	2
第19回山口県高等学校文化祭の記録	
総合開会式	18
(音楽関係4部門)	
器楽・管弦楽部門	22
合唱部門	23
吹奏楽部門	24
マーチングバンド・バトントワリング部門	25
(日本音楽・吟詠剣詩舞部門)	27
(展示関係部門)	28
書道部門	32
美術・工芸部門	32
写真部門	33
囲碁部門	34
演劇部門	35
放送部門	37
将棋部門	37
第21回全国高等学校総合文化祭の記録	40
器楽・管弦楽部門	41
合唱部門	42
吹奏楽部門	43
マーチングバンド・バトントワリング部門	44
日本音楽部門	46
美術・工芸部門	47
写真部門	49
書道部門	50
囲碁部門	51
放送部門	52
将棋部門	53
自主事業	55

参考資料

第12回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募一覧	62
(部門別応募状況、入賞作品数一覧、山口県受賞作品一覧)	63
平成9年度山口県高等学校文化連盟「<事業報告・会計決算書>	65
平成10年度山口県高等学校文化連盟「<事業計画・会計予算書>	67
山口県高等学校文化連盟規約・諸規定(会計、事務局、表彰、旅費支給基準)	69
平成9・10年度山口県高等学校文化連盟役員一覧	74
全国高文連の歌	76

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟

会長 森本 紘史

山口県高等学校文化連盟が結成10年の節目を終え、新しく次へのスタートに立ちました。二十一世紀における高校生の芸術文化活動の発展に、知恵と努力を注ぐ大切な時期を迎えています。今後とも各方面の温かい御理解、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

高校生の情熱を「山口文化維新、発進」のテーマに秘めて、本年度も12専門部の活動が繰り広げられ、各部門の発表会を通してその成果が示されました。生徒数が年々減少をしています。「総合開会式を県内7地区が地域の事情に合わせて実施をし、各地区の一人でも多くの高校生が文化活動のすばらしさに接し活動に参加する機会をつくること。それが今後の文化活動活性化の基本になる。」と、本年度改めてのスタートをしました。

平成9年6月13日、新設なった「シンフォニア岩国」のすばらしい会場で総合開会式を開催し、地元岩国市の御支援のもと、岩国高等学校を主管校とする岩国地区高等学校が一体となり、すばらしく感動的なセレモニーをつくりあげていただきました。

「咲かせよう 創造の華 万葉の風に誘われて」をテーマに、8月7日から5日間奈良県で開催された全国高等学校総合文化祭には、250名を越える山口県代表が11部門に参加をしました。真夏の酷暑は、パレードに出場した佐波高校マーチングバンドの生徒の数名が、熱演後病院にかつぎ込まれるというすさまじい状態でした。各部門とも厳しい条件を乗り越えて山口県の文化活動の成果を全国の高校生に紹介してくれたと思います。

自主事業を含めて、平成9年度の県高文連の事業が、多くの関係者の御尽力、御支援を得て無事終了する事が出来ました。瑞々しい感性が漲る高校生の文化活動が、心の豊かさを求めるこれからの教育の中心として発展していくよう、より一段のがんばりを期待します。

終わりに、この1年間終始温かい御支援、御指導を賜りました県教育委員会に深甚なる謝意を表しますと共に、高文連活動に御協力いただきました全ての方々に心からお礼を申し上げます、発刊のごあいさつとします。

山口県高等学校文化連盟・各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 松永忠雄
(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

- 1.平成9年度第19回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同演奏

6月13日(金) シンフォニア岩国
曲目 「タンホイザー」より大行進曲
「大地讃頌」

指揮 奥中淳夫(岩国高校)

器楽・管弦楽部門 4校 112名参加出演

- 2.平成9年度第19回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

6月14日(土)、15日(日)

シンフォニア岩国

参加各校によるギター、マンドリン、
管弦楽の演奏 7校 315名参加出演

- 3.第21回全国高等学校総合文化祭 奈良大会

8月10日(日)

奈良県新庄町文化会館マルベリーホール

山口県代表 岩国高等学校

(曲目) 「若人」・「山嶽詩」

- 4.平成9年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

12月15日(月) 下関南高等学校校長室

部会長以下、出席者7名

第17回器楽・管弦楽スプリングコンサート

(下関大会)、県総文、全総文、高文連表彰などについて協議

- 5.第17回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート

3月31日(火) 下関市文化会館

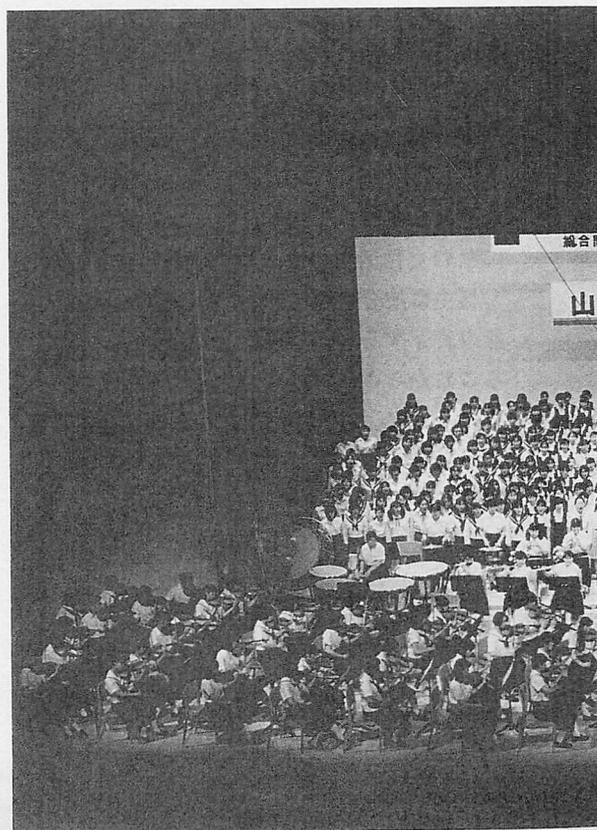
参加7校、各校によるギター・マンドリン、
管弦楽などの演奏

- * 平成9年度全国学校合奏コンクール
中国大会 最優秀賞受賞

山口中央高等学校

(曲目) ヨハン・シュトラウス作曲

喜歌劇「こうもり」序曲



合唱部門

理事長 石島栄子
(野田学園高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟・合唱部門に関して行われた今年度の行事を報告いたします。

1. 山口県高等学校合唱講習会

総合開会式を控えての講習会

5月25日(日)

講師:高嶋昌二(大阪府立淀川工業高教諭)

関西合唱連盟理事)

内容:発声と曲作り

曲目:タンホイザー、大地讃頌

場所:山口県教育会館大ホール

295名参加

2. 平成9年度第19回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏

6月13日(金)

下関南高校中心の管弦楽団との合同演奏

・オペラ「タンホイザー」より歌合戦の

入場の場面

・カンタータ「土の歌」より「大地讃頌」

県高校合唱団 370名

3. 平成9年度第19回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

6月14日(土)、15日(日)

シンフォニア岩国

合唱部門より計14校368名出場

4. 第21回全国高校総合文化祭

8月9日(土)

奈良県大和高田市文化会館

山口県代表:県立萩高等学校合唱部

「宇宙への手紙」より『湯き』

5. NHK学校音楽コンクール県大会

・県大会(8/21 徳山文化会館)

・中国大会(野田)

6. A J C L (全日本合唱連盟)コンクール

・県大会(防府市 9/1)

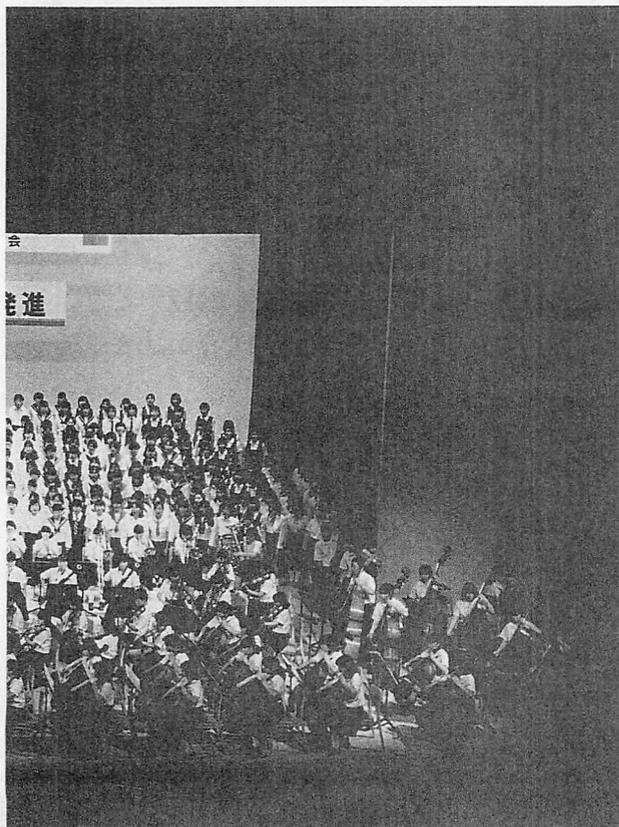
・中国大会(松江市 9/27土曜日)

参加校=奈古、防府、萩、野田

7. 高文連合唱部会

12月12日 野田学園高等学校

第19回山口県高等学校総合文化祭
総合開会式(シンフォニア岩国)



吹奏楽部門

理事長 和田道明
(華陵高等学校教諭)

平成9年度山口県高等学校文化連盟吹奏楽部門の活動を報告いたします。

1. 県総文総合開会式

総合開会式は、『山口文化維新、発進』をテーマに、岩国高等学校主管のもと、6月13日(金)シンフォニア岩国で盛大に開催されました。

吹奏楽部門は、岩国地区高等学校合同吹奏楽団を編成し、國元隆生先生指揮のもとで、式典並びに慶祝演奏会に参加しました。

[式典]“ファンファーレ”“高文連の歌”
[慶祝演奏]“祝典行進曲”
“音楽祭のプレリュード”

2. 県総文音楽4部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続いて6月14日(土)～15日(日)の2日間、音楽4部門発表会並びに連合音楽会が同じくシンフォニア岩国で開催されました。吹奏楽部門では77校2,530名の多くの学校や生徒達が参加し、素晴らしい演奏を披露してくれました。

3. 全総文奈良大会

全総文奈良大会吹奏楽部門は、8月9日(土)10日(日)の2日間、奈良県文化会館・国際ホールで開催されました。

山口県代表として下関商業高等学校吹奏楽部名(有光昭洋先生指揮)が初日に出演し、曲目バレエ組曲“ロミオとジュリエット”を演奏披露しました。華麗なサウンドで会場を魅了しました。

4. 高文連吹奏楽部会総会

本年度吹奏楽部会総会を12月9日(火)華陵高等学校で開催いたしました。県下50名の吹奏楽

指揮担当者が出席し、本年度事業報告や来年度事業計画、全総文『鳥取大会』への参加推薦等の多くの協議事項に対して意見交換がなされました。本年度は、より有意義な研修会の希望が多く、吹奏楽に対する並々ならぬ意欲が感じられました。

5. 高文連吹奏楽部会研修会

部会総会終了後、部会研修会を開催いたしました。

日本の吹奏楽界で多大な実績を積まれておられ、吹奏楽指導者としてトップの座に君臨しておられ、世界中で演奏活動を展開されている、愛知工業大学名電高等学校の松井郁雄先生を講師にお招きし、「能率的な指導法」と題した講演をしていただきました。チューニングから機器の活用、初心者指導、個人練習のポイント、能率的な合奏法等、幅広く、かつ、きめ細かに、熱心に講演していただきました。

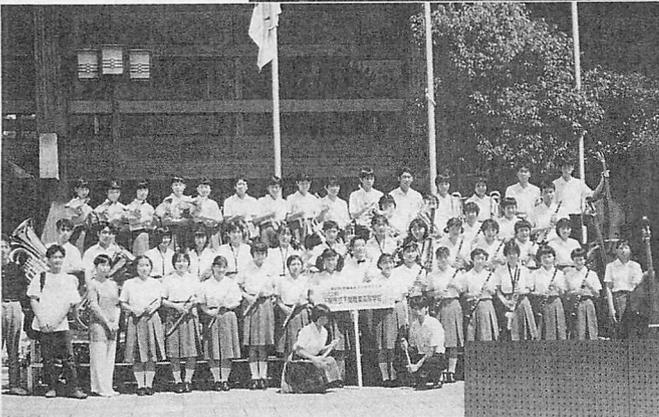
この講演で、日頃の実践にいかにも無駄なことが多かったかと反省させられました。より能率的に緊張感をもって日々の活動に臨むことがいかに大切であるかを教えていただき、大変勉強になりました。



◀ 総合開会式合同バンド



▶ 音楽4部門発表会



◀ 全国高総文祭



▶ 吹奏楽部研修会

マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長

花村 慈照

(宇部女子高等学校教諭)

平成9年度山口県高文連マーチングバンド・バトントワリング部門の主な活動を報告します。

1. 山口県高等学校総合文化祭総合開会式

総合開会式は県立岩国高等学校主管のもと6月13日(金)岩国市のシンフォニア岩国で盛大に開催されました。慶祝演奏演技には県立佐波高等学校の演奏のもと三田尻女子高等学校、宇部女子高等学校のバトントワリング部の演技で「愛を感じて」「スラムダンク」の2曲を披露しました。

2. 県総文祭音楽4部門発表会・連合音楽祭

総合開会式に引き続き6月14日(土)～15日(日)の2日間同会場で開催されました。参加校はマーチングバンドでステージドリルの演奏演技を披露したのは、県立佐波高等学校の1校とバトントワリングの演技には早鞆高等学校、宇部女子高等学校、三田尻女子高等学校の3校の68名の参加があり、すばらしい演奏演技を披露してくれました。

3. 全国高等学校総合文化祭(奈良大会)

マーチングバンド・バトントワリング部門は8月7日(木)～9日(土)の3日間奈良県で開催されました。パレード部門は奈良市街約1kmで行われ、また部門の発表会は天理市の天理大学の体育館で開催されました。各都道府県から73校の参加があり、山口県からは県立佐波高等学校のマーチングバンドが、バトントワリングには山口合同チームとして三田尻女子高等学校、宇部女子高等学校、早鞆高等学校の3校が参加し、迫力のある演奏演技で会場から絶賛の評を受けました。

4. その他の活動

各校とも平素は地元での諸行事等に参加し、地域社会に貢献しています。今年度は三田尻女子高等学校のバトントワリング部は第25回マーチングバンド・バトントワリング全国大会に中国地区代表として出場しました。

5. 高文連マーチングバンド・バトントワリング部総会

本年度は3月17日(月)宇部女子高等学校で開催しました。12名の指導担当者が出席され、本年度の事業計画の反省と来年度の事業計画、全総文「奈良大会」の参加について、および県総文慶祝演奏演技の決定等多くの協議題に活発な意見が出されました。

6. 部門の研修について

マーチングバンドは各校独自で研修を実施している。バトントワリング部は全総文大会に合同チームとして参加するために、三田尻女子高等学校、宇部女子高等学校、早鞆高等学校の3校で合同研修を年約5回実施している。



日本音楽部門

理事長 河村加南子
(徳山高等学校教諭)



平成9年度の山口県高等学校文化連盟日本音楽部門の主な活動を報告します。

1. 第19回山口県高等学校総合文化祭総合開会式における音楽4部門発表会

本年度は岩国高校と久賀高校の合同演奏で、『六段の調べ』に取り組みました。日本の伝統音楽の良さが発揮され満足のいく演奏であったと思います。

又、琴の演奏を通して、岩国高校と久賀高校の箏曲部の交流が出来たことも高文連の活動として有意義なことであり、今後に生かしていきたいものと考えます。

2. 第19回山口県高等学校総合文化祭日本音楽・吟詠剣詩舞部門発表大会

本年度は徳山高等学校主管のもと、6月15

日徳山市文化会館を会場として開催されました。大変残念なことに、今年から吟詠剣詩舞部門が休部となりました。昨年まで共に協力して大会を盛り上げていただいていただけに一日も早く、活動を再開されますよう祈っております。このように困難な条件のもとで、聖光高校が書道吟を発表したことは、吟詠の灯を絶やさぬようにという悲願のようなものが感じられ、参加した他校の生徒達にとっても同じ日本文化を担っていく者として大きな刺激となりました。

又、郷土芸能部門も山口県では、合同で発表会を開催してきましたが、一昨年から早鞆高校の華やかで勇壮な平家太鼓が加わり、今年からは、中村女子と山口県鴻城合同の大内姫太鼓が参加し、日本音楽部門に華をそえてくれました。

山口県では今後とも日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能の三部門は日本音楽部門の音頭のした、お互いに協力して日本文化の担い手を育ててゆきたいと思っています。

さて、本来の日本音楽部門も年々レベルは上がっているとのことですが、全国レベルとの隔たりはなお大きく、それに加えて各学校とも生徒数の減少にもなって、部員の確保が難しいのが正直な現状で、今後とも日本音楽の伝統を守り、育ててゆくには顧問の先生方の並々ならぬご努力に期待するほかありません。

平成10年度の第20回大会は山口県鴻城の主管のもと小郡で開催する予定です。

3. 第21回全国高等学校総合文化祭「奈良大会」

8月8日～9日の2日間奈良県の天理市で開催された全国大会には、山口県代表として徳山高校が出場しました。6人という小人数ではありましたが、審査員の評にも音がきれいであるとあり、おおいに気を良くしました。しかし全国大会ではマイクは使用できず、反響板だけが頼りの世界で、人数が多いということが大切な条件になってきます。そのためにも、何とかして部員を増やす方法を考えてゆかねばなりません。



▲早鞆高等学校

美術・工芸部門

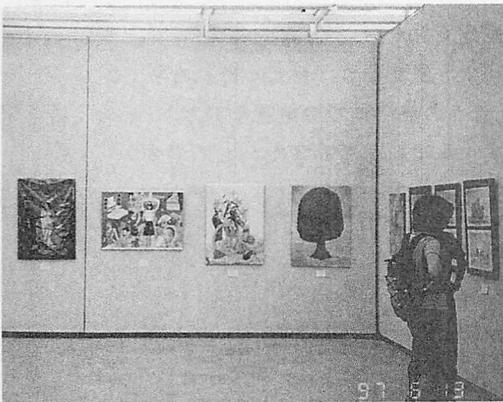
理事長

庄島信基

(厚狭高等学校教諭)

1. 県高校総合文化祭開会式慶祝展示

新しく岩国地区に建築され、一般に公開されたシンフォニア岩国は、その偉容を誇り、地域文化の殿堂として大きく貢献するものです。その施設を会場に6月13日から15日までの3日間、県高校総文祭総合開会式が開催されました。音楽部門を中心に多様な行事が行われ、美術・工芸部門も岩国・柳井地区各校からの作品を慶祝展示しました。それぞれが熱意の感じられる作品であり、広い会場と柔らかく明るい照明と相まって効果を盛り上げました。会場設営に関わられた石橋先生や他の先生方、又生徒さんに、展示効果や設営に御苦労いただきお礼申し上げます。部活動の中で制作しつづけてきた作品が少しでも日の目をみるようがんばってください。



2. 全国高校総合文化祭

うだるような暑さの奈良盆地を鹿のにおいを嗅ぎながら、会場である奈良県立美術館に向かいます。第21回全国高総文祭奈良大会は8月7日から11日までの期間、全国から集まった作品が展示されます。楽隊による演奏の開会式か



ら参加しました。昨日とちがって台風の影響か、風があるので蒸し暑さは少しはしのげました。

山口県からは『牛骨のある静物』(平田哲夫・宇部)『発動機』(中明聖晴・同)『自画像』(土山直也・野田学園)『有刺鉄線』(深川智世・宇部商業)『デザイン』(山川由利子・西京)の作品が代表出品されました。他県と比してもドッシリとした作品で安心しました。東方面は若草山や東大寺を、南北方面は興福寺や猿沢の池を近くに控えて、美術館周辺を散策するのにすばらしい環境でした。とりわけ、商店街の中を鹿が闊歩していたのは圧巻でした。山口県も大内文化や毛利文化が受け継がれている所であり、県民揚げて文化意識を高める施策がほしいと思うのであります。皆さんはどう感じられるでしょうか。

3. 県高校総合文化祭展示部門

11月7日～9日の期間、徳山市美術博物館で開催されました。主管校である下松高校の石丸先生他、徳山地区の先生方にはお世話になりました。詳細については主管校より報告します。

書道部門

理事長

古屋元子

(山口高等学校教諭)

1. 県高総文祭総合開会式慶祝展示

シンフォニア岩国の企画展示ホールにおいて、他の4部門と共に慶祝展示を行いました。本年度の全高総文祭出品候補作品4点と、岩国・柳井地区4校の作品が、広々とした素晴らしい会場に展示され、より一層、若々しい輝きを見せてくれました。

2. 全高総文祭奈良大会

会場は東大寺。国の重要文化財、大仏殿の東西の回廊に、全国高校生の作品が展示されました。この又とない舞台を用意するために払われた、奈良の関係者の努力と、東大寺側の理解を有難く感謝しました。山口県からの4点の作品は、大仏様を拜んだ後の東の回廊に飾られており、他県と比べても高校生らしいのびやかさと、真摯に取り組んで来た努力を感じさせる立派なものばかりでした。

ある引率顧問からは、この様な半屋外ではなく、室内の会場にして欲しいという意見もありましたが、奈良の酷暑の中、空の青さと木々の緑、回廊の朱色の下で見る“私の書”も、生徒の心に深く刻みつけられたと思うのですが…。

なお、奈良県の生徒が主体的に運営した交流会は、参加生徒に大変好評でした。

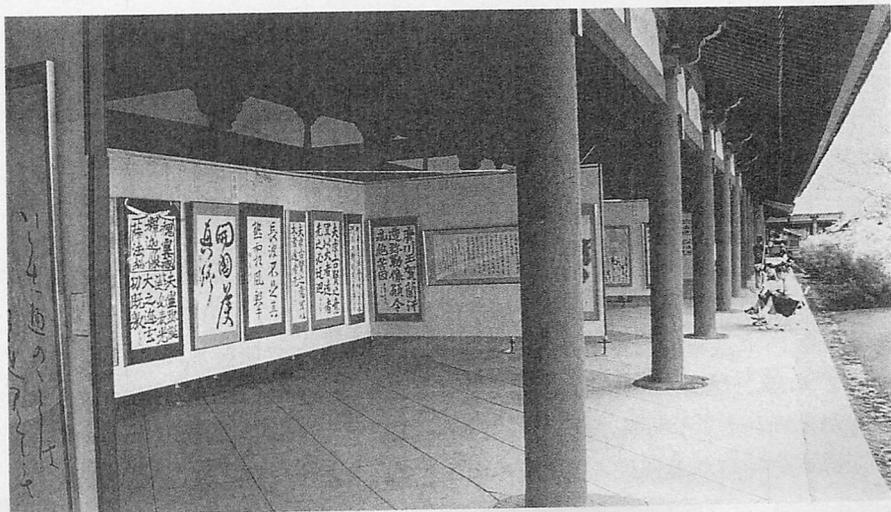
3. 山口県高等学校教員書作展

本年度は第20回の記念展となり、前理事長の徳山高校荒瀬先生の御尽力で、記念作品集も作ることが出来ました。

夏休み中の8月23日～26日、徳山市美術博物館の会場に、諸先輩方をも交えた48人の大作が並びました。山口県の書道科教員が、年に一度、互いに刺激し合い、新たな挑戦への意欲を促すこの書作展を、これからも大切に、次なる30回展を目指して又一步を踏み出していきたいと思えます。

4. 県高総文祭展示部門発表会

11月7日～9日の3日間、美術・工芸、写真部門と共に徳山市美術博物館で開催されました。狭い会場の関係で、今年度は縦長の半切作品が多く並び、多様な作品形式が出来なかったことが残念でした。しかしながら、限られた紙面に立ち向かう生徒の姿が見える作品も多くありました。日々の部活動での地道な努力と、その成果を発表する場にしていきたいものです。



▲ 全国高総文祭奈良大会(奈良東大寺回廊)

写真部門

理事長

藤川明徳

(徳山高等学校教諭)

1. 山口県高等学校総合文化祭総合開会式

できたばかりの宮殿のようなシンフォニア岩国で開かれました。

写真部も慶祝展示として、昨年度全国大会に出展した作品を中心とするレベルの高いものを展示して、皆さんに見てもらいました。

2. 全国高等学校総合文化祭(奈良)

山口県からは5点が出品されました。

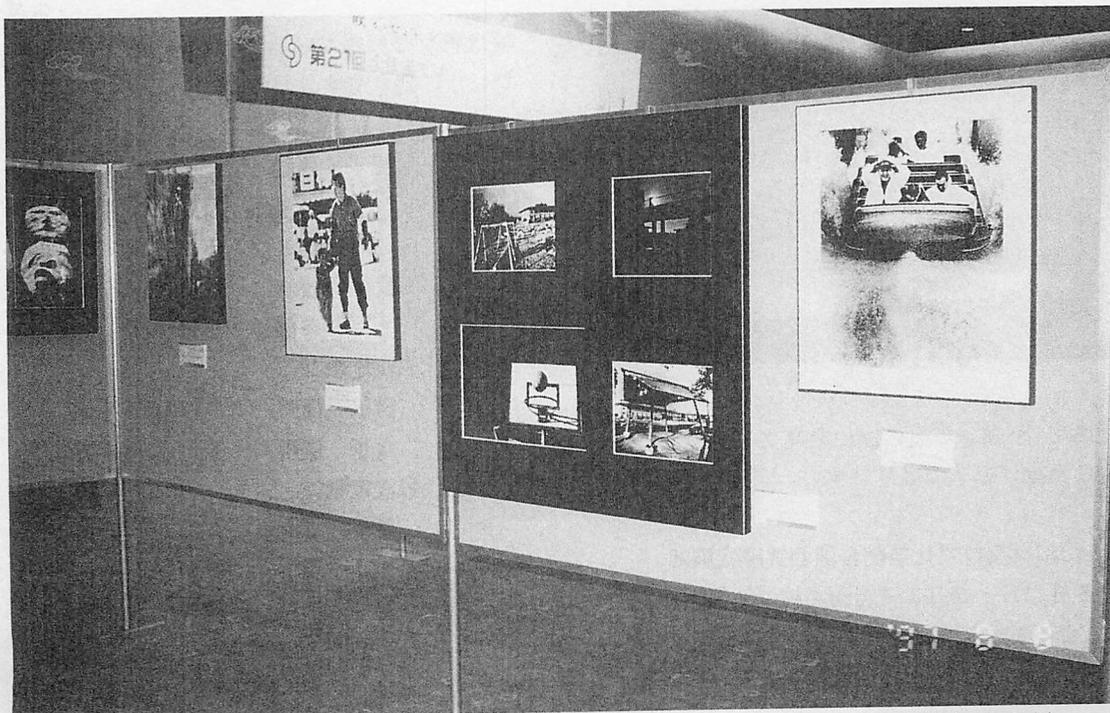
昨年の北海道大会では上位10位の中に2名が入り、山口県としては二度とこんなチャンスは来ないだろうと思われる出来すぎの栄誉を得ましたが、残念ながら、今年度は一転して、一人の入賞者もない寂しい結果でした。

全国大会の出展の作品は年々レベルが高くなって、高校生離れしたものが含まれていました。

また、カラーも入賞作品に多く見られ、時代の変化を感じます。

3. 写真部研修会並びに撮影会

11月9日(日)講評会の日に合わせて開きました。参加者は約40名でした。同じ趣味を持つ者同志の親睦、同時に技術の向上も兼ね、徳山市の動物園で撮影会を開きました。幼稚園時代に帰って、かわいい動物と一緒に遊びながら撮らせてもらいました。撮った写真は講師の先生に送って批評をしてもらうことも可能です。講師は二科会会友の浜本栄先生でした。



▲全国高総文祭(奈良大会)

囲碁部門

理事長 井口秀是
(防府高等学校教諭)

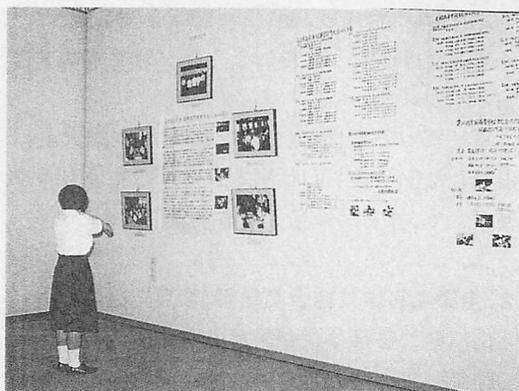
神が人間に与える最高のゲームが囲碁ではないでしょうか。今をときめくコンピューターでも囲碁に関しては人間の頭脳の前では赤児同然です。日本の最高位はプロの九段で、コンピューターは最高でもアマチュア6級程度と聞いております。人間の頭脳が如何に想像を超えた神秘的なものであるかの例証です。しかし世界に誇る伝統的日本文化の一つである囲碁の、その人口は年々減少し、現在危機的状況に在ると言えます。一方ではこの囲碁は見直され、世界化の方向にあるのは皮肉なことではありませんか。高校生の皆さん、高校から始めても囲碁は十分強くなれます。一人でも多くの方が碁を打ち、この危機を救ってほしいものです。



さて、平成9年度の山口県高文連囲碁部門の主な活動は以下の通りです。

1. 山口県高校文化祭総合開会式慶祝展示

6月13日～15日まで岩国高校で開催されました。囲碁部門の慶祝展示は、全国高校総文や県高校文化祭の第1回からの戦績を大判用紙に書いたものに、対局風景の写真を添えたものです。



2. 第19回県高校総文祭囲碁部門第9回大会兼 全国高校総文祭囲碁部門第11回大会県予選

10月26日(日)に防府高校で開催され、参加人員は男女合わせて94名でした。4回の対局で成績は次の通りです。

<団体戦>

男子	優勝	宇部鴻城高等学校
	準優勝	小野田高等学校
	第3位	下松高等学校
女子	優勝	防府高等学校
	準優勝	小野田高等学校

<個人代表決定戦>

男子	優勝	野村大樹(徳山工業)
女子	優勝	今井幸恵(宇部女子)

<団体代表決定戦>

男子	優勝	大田雄一(防府)
	優勝	道本哲也(宇部鴻城)
女子	優勝	國吉沙織(小野田)

団体代表決定戦、個人代表決定戦の勝者は、平成10年8月10～11日、鳥取県での全国高校総文祭に出場する予定です。

3. 第21回全国高校総文祭囲碁部門第10回大会

平成9年8月8～9日、奈良県磯城郡川西町文化会館にて開催されました。山口県代表は前年度の県予選大会の優勝者が出場しました。一部家庭の都合等で交替しましたが、皆よく健闘しました。団体戦では全国21位、男子個人戦は33位、女子個人戦は11位でした。

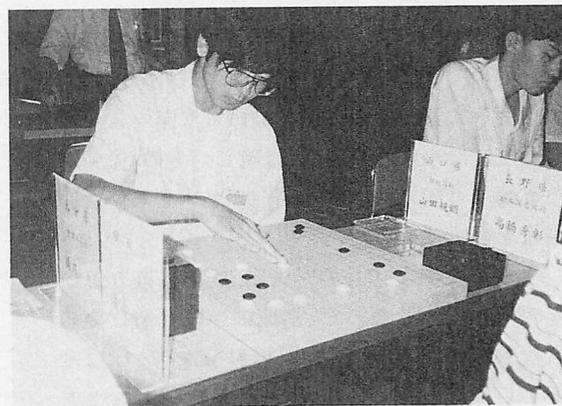


4. 県高文連囲碁部門研修会

平成10年2月8日、小郡町の山口南総合センターで開催されました。

渡辺堅一プロ(日本棋院六段)による全国大会出場者への対局指導及び、教員による指導碁等を行ないました。対局終了後渡辺プロより適切な助言をいただき、生徒は心に期するものがあり、実りの多い一日だったと思われます。

全国的には高文連と高囲連の合併の方向にあり、中国地区においても高文連、高囲連一体で中国地区大会の第1回大会(広島)が開催されました。高校生の囲碁人口の増加が今後の課題で、発展が期待されます。



演劇部門

理事長 **三藤真人**
(厚狭高等学校教諭)

1. 本年度の動き

毎年進入部員の勧誘からスタートする活動が、年を追って深刻になっている。昨年理事長の石井先生がまとめておられた実状はまさに本年度にも当てはまる。8月末の地区大会を総括してみると、全上演校が30で、昨年比2校の減少。しかし創作劇は3校の増と、内容的には見るべきところもあるようだ。各校で、単に大会のための練習に終わらない活動、顧問と部員とのこまやかなかわり、その出発からまた溢れ出してくる活力を待ちたい。演劇の舞台が、音響・照明・装置・道具と多彩なものを組あげなければ成り立たないもので、平素から勉強することは限らない。本格的な大舞台での発表においても年々入れ代わる生徒たちからすれば、目新しいもの。先輩から後輩へと伝え残される“貯金”といえる何かも舞台を変えてくる。

そうした中で10月の県大会。次第に盛り上がるの見られる秋だった。鳥取の中国大会に豊浦高校、華陵高校を送り、他県の舞台に色々学ばせてもらうことも多かったが、両校の持ち味は充分に出せたようだ。全国大会への道はしかし。

各校独自の公演、地区をあげての講習会・合同公演は続いている所があり、これからその根が広がってくればとも考える。

県の演劇部門の講習会は山口地区で3月に開催、中央部でもあり多くの参加を期待している。

2. 中国大会引き受けの10年度

さて来年度、下関で中国大会を持つにあたり、地区の顧問の動きがスタート。会場の確保から講師の先生の連絡と、来年に向けてのお膳立てが進められる。これもすべて来る11月の大会によって、また一段と県下の演劇部員が活躍してくれ、またその演劇にける眼と心とをより高いものに触れることによって培ってくれることを願いながらである。

舞台の照明を浴びるキャストは生徒たち、指導者はスタッフ。この二人三脚で頑張りたい。

3. 全国の状況

今、高校演劇の分野に一つの問題が浮上して来ている。一般的には心得ていた「著作権」の問題である。台本では当然重視されるが、効果音・音楽。さらには演技の細部に入りこんでまで他の役者の“まね”ができなくなってきた。演じること自体、自己の表現とはいえ、何かをお手本としたり、優れた演技を求めようとしたりする。それに歯止めがかけられる。今後に向けて、この問題がどのようになっていくか、関心を持つ所だ。

高校生が演劇活動に深く情熱を傾けて、自分自身を練磨しながら、発表してくれるとき、観客の動員も勞せずして可能になってくるかと、ひそかに夢をふくらませている。舞台の“そで”で…。

放送部門

理事長 青木幸子
(山口農業高等学校教諭)

1. 県総文祭総合開会式

本年度は、岩国高等学校主管のもと、シンフォニア岩国を会場に行なわれました。アナウンス、朗読において秀でた人々を持つ岩国高校放送部が、開会式の司会を行いました。

半年前から式典のための練習をスタートさせたという岩国放送部。高校生らしく、さわやかな語り口の中にも、岩高ならではのものを求めて、数々のディスカッションを重ねたと言います。基礎的な発声はもちろん、どんな風にお話しすれば会場の人々にわかりやすいだろうか？そんな事を考えて、部門紹介や慶祝演奏の台本づくりを進めたそうです。慶祝演奏においては、インタビューという形で進めてゆくことが定番になっているため、本年度もインタビューで考えたものの、どのような問いを発すれば、演奏者が和やかな気持ちで、より多くの情報を発してくれ

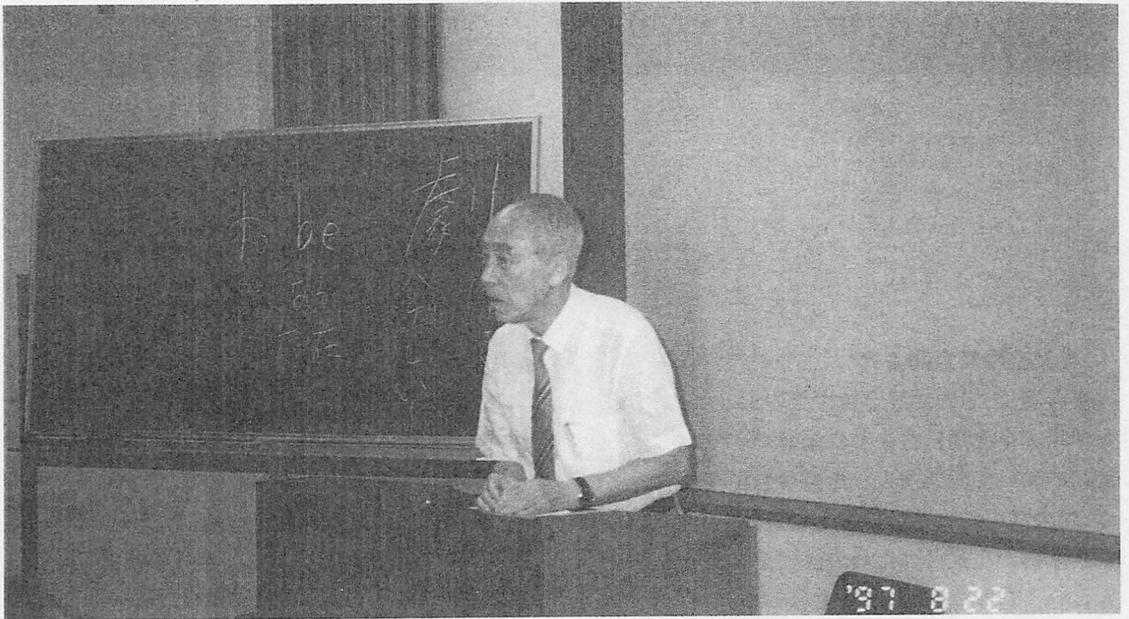
るだろうか？と考え、インタビュー内容のセレクト、仮想インタビューの練習も繰り返したそうです。そのかいあって当日の司会進行はみごとなものでした。

格調高い式典と、高校生の心をグッとつかむ、なごやかで清潔感あふれる慶祝演奏の司会と、コントラストの妙も鮮やかでした。一つのものをつくりあげるプロセスの大変さと、それを消してあまりある、すばらしい充実感を総文の開会式は与えてくれたと、部員達は語っていました。

2. 全国総文祭(奈良大会)

8月9・10日の2日間、万葉の風吹く奈良の地で全国大会が開催されました。生徒の手で全てが行われたオープニングセレモニーに私達山口県代表メンバーも圧倒される思いでした。「言霊のすだく国、日本」と言われるように「言葉」をテ





一マに、3年間かけて取り組んで来た奈良県放送部員達の結晶を目のあたりにし、大会にかかる仲間達の情熱を全身に感じる思いがしました。

その言葉のシャワーを浴びながら、山口県代表は、3番という出番の早さに胸をドキドキ高鳴らせていたのです。山口中央高校の高木理英子さんによる「山口紹介」は、ステキな山口弁、パワーのある山口弁で、会場の人々の心をとらえたようでした。アナウンスの3名は学校紹介、町のお祭、東大寺再建に関わった重源上人と、どれもたくさんの取材を重ねた上での絶妙な切り口のものばかりでした。

朗読は、本年度は奈良を舞台にというテーマのもと、秋篠寺の技芸天、西鶴名作集、そして伊勢物語と、時空を超えた世界にみんなを誘ってくれるステキなものばかりでした。

ビデオメッセージ部門の野田学園は「大仏のふるさと山口」ということで重源上人にスポットをあて、みごと奨励賞を受賞。

オーディオビクチャー部門では、山口農業高校が「農高の愉快的仲間達」で「ブタ」とそれを世話するステキな仲間を全国にアピールすることができました。

3. 県高校総合文化祭放送部大会

本年度は、山口農業高校主管のもと11月9日に第4回放送部大会が開かれました。ニューメディアプラザ山口という、はじめての会場で生徒達の緊張感は限りない高まりをみせました。山口放送からアナウンス部の国本泰功アナウンサーと、テレビ制作部課長・竹村昌浩さんが審査員としておいで下さいました。参加人数、参加作品数も過去最大ということで、レベルもアップし、力がみな伯仲しているため、入賞者を決定するのに頭を悩ませたとおっしゃいました。

4. 放送部会研修会

本年度は8月22日に、放送界の重鎮「西澤實先生」を山口農校研修会館にお迎えして、『ドラマとは』と題してラジオドラマ及びテレビドラマ等作品制作の過程における重要項目を教わり、さらに先生の制作された作品の内容、さらに日本のラジオドラマ作家に多大の影響を与えたノーマンカーウエンの作品についての紹介などをお聞きすることができました。2時間半にわたる講演の後は、アナウンス朗読の個人レッスン＝実践指導＝にうつり、NHK、フジテレビ等のプロのアナを指導される先生から厳しくも心あたたまる指導を受け、参加者全員深い感動につつまれたのでした。

将棋部門

理事長 **弘中敏之**
(下松高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟に正式加盟して2年目となる本年度は、生徒数は減少し課外クラブの統廃合といった厳しい流れの中にもかかわらず昨年度同様、次の三つの事業を実施、成功させることができました。

1. 山口県高等学校総合文化祭

開会式の慶祝展示

熊毛南高校を中心に、6月13日(金)から15日(日)にかけてシンフォニア岩国において展示されました。昨年度の山口県代表選手の活躍の様子や、先行して行われた県部門大会の様子等、写真5点の展示と各大会の説明を中心にまとめられました。広く素晴らしい会場と、作成に当たられた熊毛南高校の古谷清和先生、そして展示会場の設営に携わっていただいた岩国地区の諸先生方、生徒の熱意が伝わる展示となりました。

2. 第19回山口県高等学校総合文化祭

将棋部門大会 兼

第33回全国高等学校将棋選手権大会県予選

下松高校主管のもと、6月1日(日)に中国新聞山口支社3階ホールにおいて開催されました。本年度は山口県教育委員会の三原指導主事、森本会長を来賓としてお招きすることができましたが、会場の整備にやや課題が残りましたが、参加者は13校男子43名、昨年より漸増しました。個人戦で2年連続優勝した厚狭高校の金築克祐君と、団体戦で優勝した柳井高校の濱元秀明・向井克規・河村浩二の3君は、全国高等学校総合文化祭奈良大会に出場し、健闘しました。

3. 山口県高等学校文化連盟将棋専門部研修会

下松高校主管により、11月9日(日)に新南陽ふれあいセンターで行われました。理事の先生を中心とした大会運営の研修と、1・2年生の男子22名11校の棋力向上を図りました。指導対局や運営にあたって、日本将棋連盟山口県支部連合会の多大な御協力をいただきました。結果は、厚狭高校の金築克祐君と徳山高校の吉岡拓馬君が優秀な成績を収め、全国高等学校文化連盟将棋

専門部主催の新人大会に参加しました。

一年間の活動を通して、生徒の参加・普及は少しずつ成果を上げつつあるものの、指導する教師の不足が、今後の大きな障壁となってきました。未だ、歴史の浅い組織です。女性も含む、より多くの方々や生徒の参加に御協力をよろしくお願い致します。

◀ 県高校総文祭将棋部門大会
兼 将棋選手権大会県予選



総合開会式

会場：シンフォニア岩国

主管校

藤本博途

(岩国高等学校教諭)

▼第19回山口県高等学校総合文化祭 総合開会式(シンフォニア岩国)



第19回山口県高等学校総合文化祭の総合開会式は『山口文化維新、発進』を大会テーマに平成9年6月13日(金)シンフォニア岩国コンサートホールで開催されました。

当日は天気も良く、貴船悦光岩国市長をはじめ多数のご来賓をお迎えし、専門部を代表する約500人の出演者と、主管校である岩国高校の1年生全員、それに一般の聴衆とで、コンサートホールは熱気を帯びた、感動的な開会式となりました。

式典は岩国高校生徒会副会長である津田衛君のしっかりした開会宣言に始まり、岩国地区高校合同吹奏楽団約100名によるファンファーレが鳴り響きました。指揮者は岩陽高校の國元隆生先生が務められました。続いて『高文連の歌』が鳴り響く中、13専門部のプラカードを持った岩国高校の女生徒が入場し、森本紘史高文連会

長、牛見正彦山口県教育次長からごあいさつをいただき、さらに岩国高校生徒会長和田昌紘君が生徒代表としてあいさつをしました。貴船岩国市長の歓迎のことばのあと、功績賞として元事務局長の窪田恵さんと元美術・工芸部理事の岸勤さんが、優秀芸術文化賞として下関南高校管弦楽部と厚狭高校の金築克祐君が、テーマ最優秀賞として岩国高校の亀山仁君がそれぞれ表彰を受けられました。続く各専門部の紹介はスライドを交え、わかりやすく華やかに進みました。シンフォニア岩国の特殊な照明も功を奏して、全体的に美しいという印象で式典は終わりました。

続く午後2時からの慶祝演奏は、佐波高校、三田尻女子高校、宇部女子高校による、きびきびしたそして華やかなマーチングバンド・バトントワリングの演奏で始まり、久賀高校、岩国高校のしっとりとした琴の演奏がありました。ここで

もシンフォニア岩国の照明が映え、見ているだけでもうっとりするようなステージでした。さらに開会式でも活躍した岩国地区高校合同吹奏楽団の演奏、そして岩国高校の奥中淳夫先生指揮による合唱・器楽管弦楽の演奏がありました。そして最後はオーケストラをバックにしての全員合唱が行われ、感動の慶祝演奏は幕を閉じました。これら一連のコンサートホールでのアナウンス、司会進行は岩国高校放送部が務めました。全国大会に毎年進む実力を発揮した見事な進行でした。

一方シンフォニア岩国企画展示ホールでは、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋の秀作が県内より集められ展示されました。多数の地元市民

や高校生が熱心に鑑賞しレベルの高さに感動をよんでいました。

さて、前年主管校の萩高校から引き継ぎを受けた本校は中村徹特活部長を中心にして約1年かけて準備をして参りました。幸い一昨年完成したシンフォニア岩国を利用することができ、当日の流れは大変スムーズに行くことができました。しかし細かい点では不備もあり、関係機関に大変ご迷惑をおかけしたことをおわびいたします。また高文連事務局の先生方、専門部理事長の先生方のご指導のお陰で無事に開催できたことを心から感謝申し上げます。

来年はサンビーム柳井でお会いしましょう。

主管校 **奥中淳夫**
(岩国高等学校教諭)



「山口文化維新、発進」

第19回山口県高等学校総合文化祭のテーマです。作者は、地元岩国高校の亀山 仁君。なかなかイイですね。じつは、岩国高校の校内選考でテーマをいくつか選び、高文連の本部に送ったのですが、これが選ばれるのではないかなあ、とひそかに思っておりました。ちなみに亀山君は真面目な好青年です。

で、1997年6月13日、山口県高等学校総合文

化祭の総合開会式が、完成まもないシンフォニア岩国で開催されることになりました。梅雨時ということで天候が心配だったのですが、どうか天候ももち、関係者一同ほっといたしました。シンフォニア岩国自体は大変高い機能を持っておりますが、天候だけはどうしようもないですからね。

リハーサルもなんとか時間内におさめ、午後1時、岩国高校生徒会副会長の津田 衛の力強い開会宣言により、無事開幕。岩国地区合同吹奏楽団の名手たちによるファンファーレが華を添えます。続いて各専門部代表の入場、来賓及び主管校生徒代表のあいさつ、各賞の受賞式が行われました。どれも心に残るものでしたが、私とくに印象深かったのは、優秀芸術文化賞を受賞された、厚狭高等学校の金築克祐くんです。将棋という、どちらかといえば玄人うけする渋い分野で実績をあげられたということは、高く評価されてもいいのではないのでしょうか。

次に各専門部の紹介。どの部門も頑張っているなあ、という思いひとしお。今後の各部門のますますの発展を祈ります。そして、いよいよ本日のメインイベント、慶祝演奏の開始です。県内の高校生達が毎年持てる力をフルにぶっつけて表現するひのき舞台。今年もおおいに盛り上がりました。

トップバッターは、マーチング・バトントワリング。毎年、観るものを一気に引き付ける舞台を展開してくれますが、今年もなかなか見事なできだったと思います。(この部門はもうすこし、ウチもやってみようかな、という学校が増えてもいいのでは?なんといってもカッコイイですから。)

続いては、邦楽のひとつ。この世界は実に奥が深い。日本の伝統を守る意味からも、みんなで、大切にしていきたいものです。

次は毎年恒例、地元選抜メンバーによるシンフォニック・バンドの演奏です。日頃あまり経験できない大編成の音響に、演奏する側も聴く側もしびれたのではないのでしょうか。曲がまたスタンダードな選曲でヨカッタ。(早い話、我々の

ようなオジサン向きだった。)

ラストを飾るのは、これも毎年おなじみの、オーケストラと大合唱による、一大ページェント、「大地讃頌」と「タンホイザー」の大行進曲。不肖、私めの指揮での演奏でしたので、なかなか客観的に書くのは難しいのですが、いい演奏だったと思います。演奏する生徒達の気合いがピンピン伝わってきたし、練習時間が短かったぶん、一気に集中していったのではないかという気がします。(もっとも、ホールでの音響の良さにずいぶん助けられたのも事実ですが…)

コンサートホールでの演奏はこうして無事終了。企画展示ホールでの慶祝展示の方も、もちろん力作ぞろいで目を楽しませてくれました。

これだけ大がかりなイベントは、高校生が主体のものとしては県内最大級のものでしょう。地元岩国の方々はもちろん、県内各地から御協力いただいた皆様に感謝いたします。

98年度は柳井で開催予定の総合開会式。次回も高校生達のパワーあふれるステージを楽しみにしています。



▲合同吹奏楽団(岩国地区吹奏楽団)



▲合同吹奏楽団(岩国地区吹奏楽団)

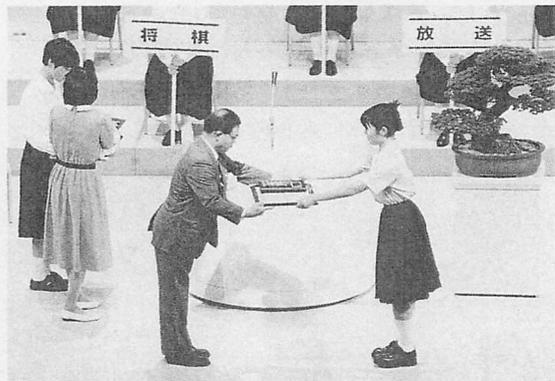


▲山村賢太郎(下松高校)君のイラストを基にしたポスター



▲受付風景

▼表彰式



▼慶祝展示



音楽関係4部門発表会

器楽・管弦楽部門

会場：シンフォニア岩国

理事長 **松永忠雄**
(下関南高等学校教諭)

平成9年度第19回山口県高等学校総合文化祭の音楽関係4部門発表会は6月14日(土)、15日(日)の両日、新装の“シンフォニア岩国”において例年の如く、高文連各部門のトップを切って開催されました。またその前日の13日(金)には、総合開会式が満員の聴衆を集め盛大に行われました。

器楽・管弦楽部門でも昨年のように合唱部門と合同で式典の慶祝演奏に参加しました。今年度は“シンフォニア岩国”のステージ(ピット付き)が広く規模の大きなオーケストラを編成することが出来ました。(4校112名)。演奏曲目は「大地讃頌」「タンホイザー大行進曲」の2曲です。特に「タンホイザー」は奥中淳夫先生(岩国高)の情熱溢れる中にも正確な指揮のもとで、2

階席の左右に位置したトランペット6人づつ(柳井高・防府高)の輝かしいファンファーレ、ワーグナー独特の重厚な響き、コーラスとオーケストラの一体感となった終盤の盛り上がりなど、開幕式典にふさわしい音楽としてその演奏は聴衆の方々に深い感動を与えたことと思います。

さて、翌日から2日間にわたって開催された音楽関係4部門発表会の器楽・管弦楽部門には今年度もオーケストラ5校、ギター、マンドリン合奏2校の出演があり、多数の参加のあった吹奏楽部門(50数校)に混じって、一服の清涼剤ともいえる演奏を披露しました。各校ともに弦楽器独特の艶やかで、柔らかい音色を備えた立派な演奏で、大会を大いに盛り上げました。



▲下関南高等学校管弦楽部

合唱部門

会場：シンフォニア岩国

理事長 **石島 栄子**
(野田学園高等学校教諭)

平成9年度山口県高等学校総合文化祭の音楽部門の発表会は6月13日(土)、14日(日)の2日間、シンフォニア岩国にて開催された。設備の整った、県下で最高の美しいホールで演奏できることは高校生にとって大変嬉しく、また思い出に残る演奏となったことと思う。

岩国は山口県の端に位置するため遠距離の学校が多く、また日曜日に行事と重なる為に、プログラム編成では地元地区に大変ご迷惑をかけてしまいました。岩国高校を中心に地区の高校生・先生方の熱心な運営のおかげで2日間を無事終えることができました。合唱部門は2日にわたり、第1日目は香川、サビエル、奈古、宇部、山口中央、萩光塩、防府、宇部中央、中村、野田、萩の11

校が、第2日目は岩国、長府、高水の3校、計14校368名が出場した。各校の特徴を生かし気軽に出場できるこの大会で、合唱部門の広がりを望みたい。

合唱は基礎の声作りに大変時間が掛かるので、根気が要り大変だが、奥が深く楽しいものである。願わくはもっと合唱部門の参加が増えることである。また歌うだけでなく、表現の幅広さ、演技力を含めて合唱表現の研究を試み、もっともっと合唱が楽しく深いものであることを追求していきたい。

歌うことは訴えること!

歌うことは演じること!

▼萩高等学校



吹奏楽部門

会場：シンフォニア岩国

主管校 藤本博途
(岩国高等学校教諭)

第19回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門の発表会は、6月14日(土)、15日(日)の2日間、シンフォニア岩国にて開催されました。吹奏楽部門からは52校約2,000人の参加を得ました。岩国という『端っこ』にある町への参加は時間もかかり不便な面もあったと思いますが、各団体とも演奏はすばらしく、聴衆に感動を与えてくれました。生徒減により各校の吹奏楽部も部員減に悩まされていますが、小人数でもそれを感じさせないパワーを見せてくれたり、演奏面で工夫を凝らしたりして、今後の吹奏楽活動の一端を垣間見たような気がしました。

当日大きな混乱や問題はありませんでした。バスの駐車場がなかったため錦帯橋の河川敷まで行ってもらったりしてご迷惑をおかけしました。

それに先立つ開幕式典は、岩国地区高校合同吹奏楽団(岩国、岩陽、岩国商業、岩国工業、高水、広瀬、坂上、高森)が岩陽高校の国元隆生先生のすばらしい指揮の下、ファンファーレ、高文連の歌を演奏し慶祝演奏では『祝典行進曲』『音楽祭のプレリュード』の2曲を演奏しました。2回の合同練習しかできませんでしたが、シンフォニア岩国コンサートホール全体にすばらしいプラスの響きが鳴り渡りました。

最後は岩国高校の演奏で『ふるさと』を全員合唱して発表会は閉幕しました。この場をお借りして、演奏してくれたすべての高校生、先生方、岩国地区の補助員の生徒さんにお礼申し上げます。来年もサンビーム柳井で、高校生のはつらつとした、熱気あふれるステージが見られることを期待します。



▲広瀬高等学校

マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：シンフォニア岩国

理事長 **花村 慈照**
(宇部女子高等学校教諭)



▲宇部女子高等学校

第19回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門の発表会は、総合開会式の翌日、6月14日(土)・15日(日)の2日間、シンフォニア岩国で開催されました。マーチングバンド・バトントワリング部門には4校102名の参加を頂きました。

13日(金)の慶祝演奏演技では県立佐波高等学校の演奏のもと、三田尻女子高等学校、宇部女子高等学校の合同チームで「愛を感じて」「スラムダンク」の2曲を披露しました。

2日目の6月14日(土)の音楽4部門の発表ではバトントワリングには宇部女子高等学校「アクセストゥドリーム」、三田尻女子高等学校「飛翔」、早鞆高等学校「ディア マイ フレンド」の演技を行ない、マーチングバンドでは山口県立佐波高等

学校の2曲でステージドリルを行ないました。ステージいっぱい各校とも特色のある演奏演技を行ないました。

『県総文祭の思い出』

県立佐波高等学校

吹奏学部・マーチングバンド部

6月20日、私たちにとって初めての「シンフォニア岩国」でのステージでした。今回は夏の全国高等学校総合文化祭県代表ということで、総合開会式にバトントワリング3校「宇部女子高校・三田尻女子高校・早鞆高等学校」とジョイントのマーチングステージを発表しました。

佐波高校は自然に恵まれた環境にあるため、選曲も『自然とともに生きる』というテーマで

『愛を感じて(映画ライオンキングより)』と、もう1曲は若者らしさをアピールして『スラムダンク(ヒットポップス)』にしました。

4部門の発表会には『重源の郷から奈良への

かけはし』を発表しました。徳地町の材木が東大寺建立に用いられたという、ゆかりの地での全総文に向け部員の気持ちは今ひとつになっています。



◀ 三田尻女子高等学校



◀ 早鞆高等学校

慶祝演技▶
(佐波高等学校と合同チーム)



第19回県高総文祭の記録

日本音楽部門・吟詠剣詩舞部門

会場：徳山市文化会館

主管校 河村加南子
(徳山高等学校教諭)

「山口文化維新、発進」というテーマのもと、第19回山口県高等学校総合文化祭・日本音楽部門の発表大会が徳山市の文化会館を会場に開催されました。

本校が主管校としてお世話することになりましたが、なにぶんにも初めてのことばかりで、本校文化部が丸となって、精いっぱい努力したつもりではありましたが、行き届かないことも多く、ご迷惑をおかけしたのではないかと心配しております。

ところで、昨年まで一緒の発表大会を開催し、大会を盛り上げていただいていた、吟詠剣詩舞部門が、事情があって休部され、今年は、あの朗々と吟じる声が聞かれないのかと寂しく思っておりましたところ、聖光高校が書道吟を出してください、どうやら吟詠の灯を消さずにすみました。このうちは一日も早く吟詠剣詩舞部門を再開されるよう願っています。

さて、県大会は本校がトップバッターをつと

め、その後は、すぐ裏方にまわり大会の運営(舞台係)に従事しました。

県下18校175名の皆さんが日頃の練習の成果を十分発揮され、太鼓、琴、書道吟と日本音楽のもつ豊かさおもしろさを堪能したうえに、今年はあらたに大内姫太鼓が加わり、優雅な太鼓に接することができました。

閉会式では、松村房子先生に暖かい励ましの言葉と示唆に富んだご講評をいただき、参加者の胸に深く響いたことと思います。

最後に今大会では、いろいろと行き届きの点が有り、ご迷惑をおかけしましたが、関係の皆様方のご援助とご協力のお陰で無事終了することができました。心から感謝し、お礼申し上げます。今後とも、日本音楽が益々発展してゆきましよう、お互いに協力して参りましよう。

来年は、山口県鴻城高等学校の主管のもと小郡で山口県大会が開かれます。



展示関係部門

会場：徳山市美術博物館

主管校 石丸康生
(下松高等学校教諭)

平成9年度第19回山口県高等学校総合文化祭展示部門は11月7日(日)～9日の3日間、徳山市美術博物館を会場に開催されました。総出品数349点、参加数3部門76校という内容で、懸念された展示面積も少々狭いながらも全出品作品を展示することができました。来場者数も、1100名を超え、多かった昨年を300名近くに上回りましたが、これはTV局3社の取材の影響が大きかったと思います。生徒の作品をより多くの人に観てもらうために広報関係を主管校だけでなく、

県全体で考えていかなければならないと感じています。講評会参加者も例年に比べ多かったようですが、例えばオープニングセレモニーをするより最終日に表彰式を行ない生徒を参加させるなり、形式にとらわれない、より生徒主体の展覧会にしていく方向はないものだろうかと感想をもちました。なお、お世話になった関係各位、運営委員の先生方、生徒のみなさんに感謝し、報告いたします。

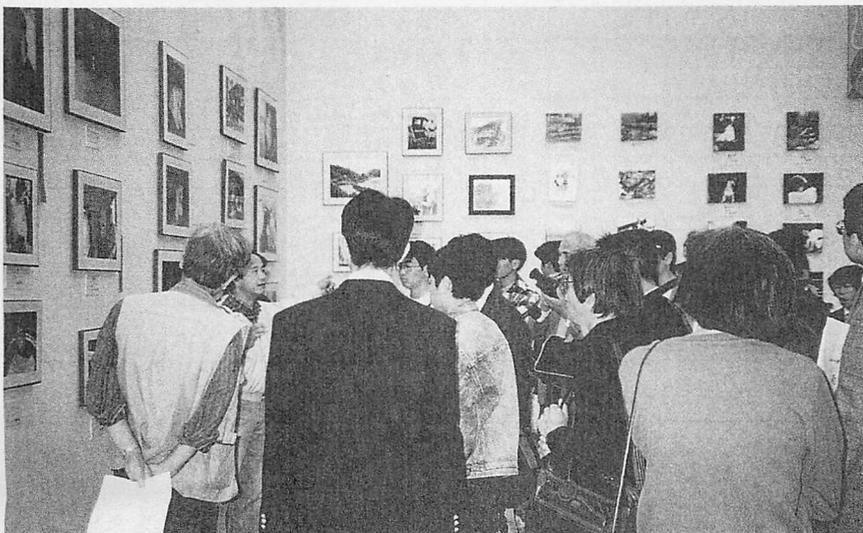




◀書道部門講評会



美術・工芸部門
講評会 ▶



◀写真部門講評会

第19回県総文祭展示部門出品校一覧表

	学校名	美術・工芸	書道	写真		学校名	美術・工芸	書道	写真
01	安下庄				48	田部			
02	久賀				49	西市			
03	岩国	3			50	豊浦	5		
04	岩陽	5	4		51	長府	5		
05	岩国商業				52	下関西		4	4
06	岩国工業	3		5	53	下関南		4	
07	坂上				54	下関第一		4	
08	広瀬	1			55	中央工業			
09	高森	5		8	56	下関工業			
10	柳井	1			57	響			
11	柳井商業				58	豊北			
12	柳井工業				59	日置			
13	熊毛南	5			60	大津	4	4	
14	田布施農業				61	水産			
15	田布施工業	4		1	62	萩	4		
16	光	1			63	萩商業	5	2	
17	光丘			11	64	萩工業	3		
18	熊毛北			13	65	徳佐			
19	下松	5	4		66	奈古			
20	華陵	5	5		67	盲			
21	下松工業				68	壱			
22	徳山	4	4	7	69	岩国養護			
23	徳山北				70	田布施養護			
24	徳山商業				71	徳山養護			
25	徳山工業				72	防府養護			
26	鹿野				73	宇部養護			
27	新南陽	5			74	下関養護	2		
28	南陽工業			10	75	萩養護			
29	佐波				76	下関商業	5		
30	防府		4		77	高水	3	4	
31	防府西	3		8	78	柳井学園			
32	防府商業	5			79	聖光			
33	山口	5	4	10	80	桜ヶ丘			
34	山口中央	5	3		81	三田尻女子			
35	西京	5		10	82	多々良学園			
36	山口農業			3	83	中村女子	5	3	
37	宇部	5			84	野田学園	2	4	
38	宇部中央	5	3		85	山口鴻城			
39	宇部西	5	3	6	86	宇部鴻城	4		
40	宇部商業	5			87	宇部女子		4	
41	宇部工業		3	2	88	美祿中央			
42	小野田			5	89	香川		4	
43	小野田工業		3		90	サビエル	3		
44	厚狭	4			91	早鞆			
45	美祿				92	下関女短大付属		4	
46	大嶺				93	長門	5		
47	美祿工業			9	94	萩光塩学園		4	

出品作品数 152 85 112

◎第19回県高総文祭 優秀作品一覽

美術・工芸部門

全総文祭出品候補作品
最優秀賞5点

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	岩国高等学校	2	河内 尚子	蓮葉何田田
2	下松高等学校	2	浅村 久美子	ポスター
3	豊浦高等学校	2	秋枝 正訓	コンポジション
4	萩高等学校	2	河合 郁子	今, 私
5	萩光塩学院高等学校	2	松浦 友香	記憶の再会

優秀賞10点

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	大津高等学校	2	南部 睦子	ふれぜんと
2	山口高等学校	2	中野 智仁	花
3	宇部中央高等学校	2	大田 舞	花束
4	〃	3	中村 香	春
5	〃	2	金藤 裕美	アクアパレット
6	宇部女子高等学校	3	金子 聡美	日本の四季
7	下松高等学校	2	藤川 真由子	ポスター
8	華陵高等学校	3	中谷 香織	楽園
9	萩光塩高等学校	2	田村 朋子	春の風景
10	新南陽高等学校	2	田村 佳織	虚構

書道部門

全総文祭出品候補作品
最優秀賞4点

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	徳山高等学校	2	書道部 合作	相田みつおの句
2	下関西高等学校	2	中村 浩子	臨 九成宮泉銘體
3	下関第一高等学校	1	釜崎 旭史	臨 蘭亭序
4	下関女子短期大学付属高等学校	2	山崎 紀子	篆刻

優秀賞5点

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	下松高等学校	2	上野 徳子	臨 皇甫誕碑
2	防府高等学校	2	中川 美穂	臨 宣示表
3	山口高等学校	1	福倉 美智子	臨 孟法師碑
4	宇部西高等学校	2	唐下 勝則	臨 雁塔聖教序
5	下関西高等学校	2	村井 絵美	臨 石山切伊勢集

写真部門

全総文祭出品候補作品
最優秀賞5点

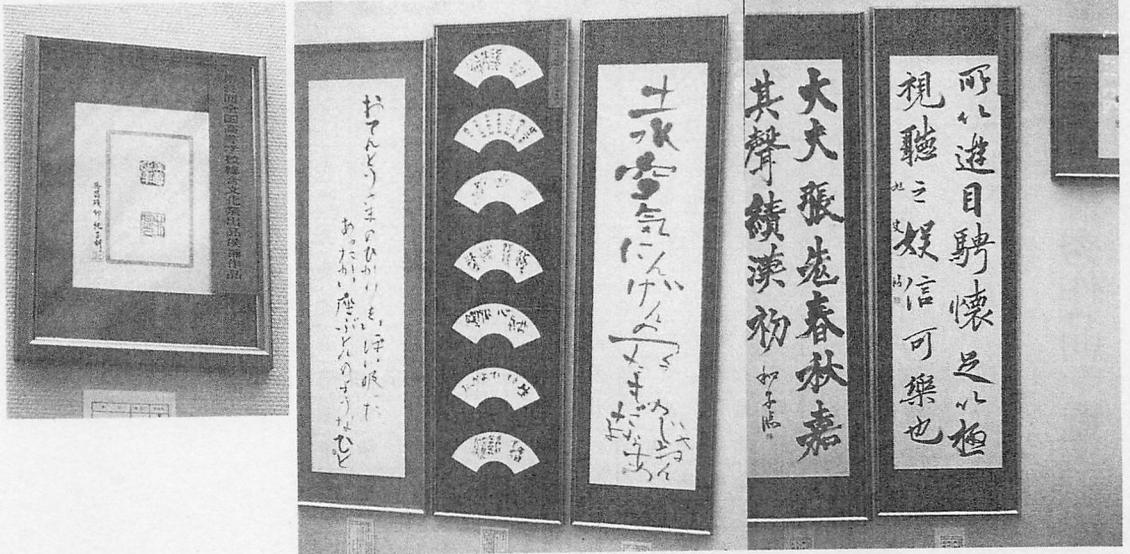
	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	徳山高等学校	2	柿本 真宏	あー, 高校生
2	〃	2	椎木 良憲	高校生
3	南陽工業高等学校	2	坂田 一馬	雨上がり
4	小野田工業高等学校	2	管能 剛	夏・仲間
5	美祿工業高等学校	1	山岡 隼人	漁村

優秀賞8点

	学 校 名	学年	氏 名	題 名
1	岩国工業高等学校	3	中野 修一	そりゃ, おもしろい
2	西京高等学校	2	田村 剛	シマっていこう
3	〃	〃	全 全 員	思い出の甲子園' 97
4	山口農業高等学校	3	藤津 勝彦	家畜市場の人々
5	〃	〃	〃	牛のいる授業
6	小野田高等学校	2	梅津 敦史	うちのちびくろ
7	美祿工業高等学校	1	奥田 敬史	緊迫の瞬間(とき)
8	山口高等学校	2	渋谷 優子	あくび

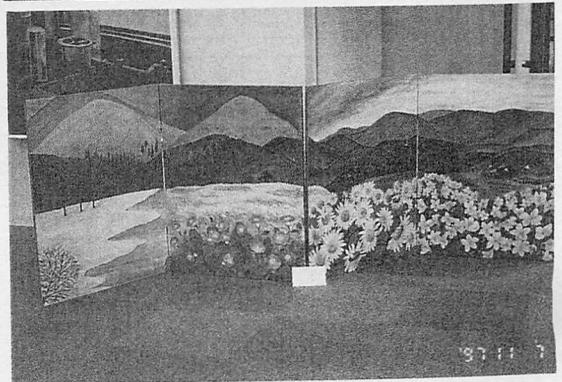
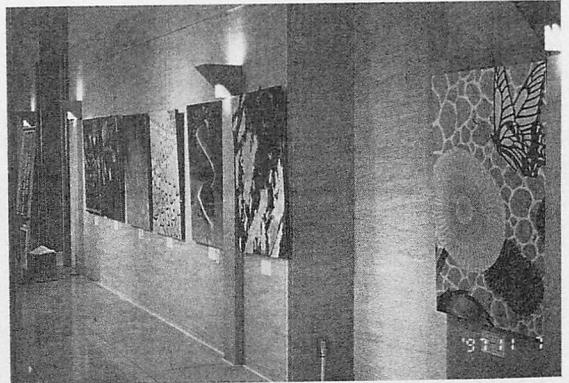
書道部門

会場：徳山市美術博物館



美術・工芸部門

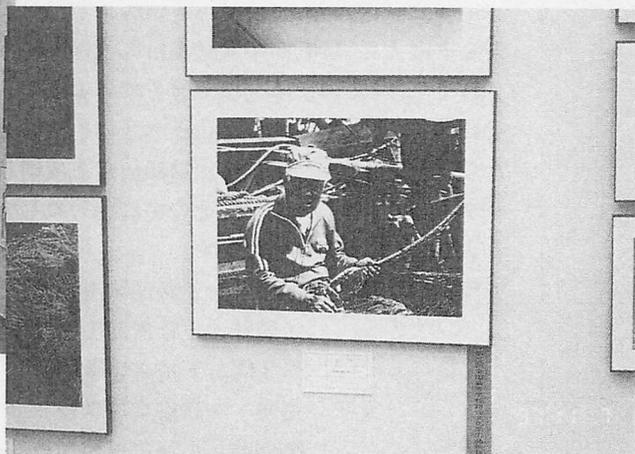
会場：徳山市美術博物館



写真部門

会場：徳山市美術博物館

理事長 藤川明徳
(徳山高等学校教諭)



11下旬、下松高校主管の下、徳山市美術博物館で開かれました。この大会で下記の作品が優秀として表彰されました。この中の◎印は平成10年度の全国大会出展候補作品です。この作品の中から上位入賞をと、祈っています。

岩国工業高校

3年 中野修一 そりゃおもしろい

◎徳山高校

2年 柿本真宏 あー高校生

◎徳山高校 2年 椎木良憲 高校生

◎南陽工業高校

2年 佐伯健太郎 雨上がり

西京高校

2年 田村 剛 シマッてゆこう

西京高校 全員 思い出の甲子園97

山口高校 2年 渋谷優子 あくび

山口農業高校

3年 藤津勝彦 牛のいる授業

小野田高校

2年 梅津敦史 うちのちびくろ

◎小野田高校 2年 管能 剛 夏 仲間

◎美祢工業高校 1年 山岡隼人 漁村

美祢工業高校 1年 奥田敬史 緊迫の瞬間

作品枚数は昨年より多く約130枚でした。

作品もバラエティに富み、楽しい展示会となりました。

今年も着眼点はいいいのに、雑な暗室作業、不適切なフレミングが原因で惜しくも入賞を逃している作品が目立ちました。

年々、レベルが上がって、来年の展示会が楽しみです。しかし、上位に入賞するのは困難となり生徒諸君は大変です。

囲碁部門

会場：防府高等学校

理事長 **井口秀是**
(防府高等学校教諭)

平成9年度の第19回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門第9回大会兼全国高等学校文化連盟囲碁部門第11回大会県予選は、平成9年10月26日(日)高文連会長森本紘史校長先生、指導課指導主事三原裕人先生、高文連事務局長中邑立夫先生を迎えて、防府高等学校多目的教室で開催されました。参加校は8校で男子42名女子4名計46名で、終日熱い戦いが続きお互いに健闘をたたえ合いました。競技方法は四面打ち変則リーグ戦(ハンディー戦)で、その中に団体戦も組み入れ、結果は次の通りです。

＜団体戦＞男子 優勝 宇部鴻城高等学校
準優勝 小野田高等学校
第3位 下松高等学校
女子 優勝 防府高等学校
準優勝 小野田高等学校

＜個人代表決定戦＞

男子 優勝 野村大樹(徳山工業高校)
女子 優勝 今井幸恵(宇部女子高校)

＜団体代表決定戦＞

男子 優勝 大田雄一(防府高等学校)
優勝 道本哲也(宇部鴻城高等学校)
女子 優勝 國吉沙織(小野田高等学校)

なお、全国高校総文祭の代表決定戦は、第3戦までの成績と棋力を考慮に入れて選抜委員が10名を決定し、第4戦は対局時計も使用して、互戦で代表権をかけて行ないました。それぞれ優勝の5名は、平成10年8月10日～11日に鳥取県倉吉市で行われる全国大会に出場する予定です。今年は昨年とはメンバーが一新され、どんな戦い方がなされるか非常に興味がある所です。毎日の厳しい鍛練によって実力の向上を計ってもらいたいものです。

囲碁は頭のスポーツとも言われており、集中力、決断力、思考力が瞬時に問われます。勉強と囲碁とは両立します。囲碁が強くなれば頭脳も抜群に鋭敏になって行きます。四千年の歴史を持つ日本の神秘的で哲学的な盤上のゲームに参加してみませんか。必ずや皆さんの躍進の原動力になると信じています。



演劇部門

会場：下関市文化会館

理事長 **三藤真人**
(厚狭高等学校教諭)



▲「インドはアフリカからきた」豊浦高等学校



▲「空いろの花」華陵高等学校

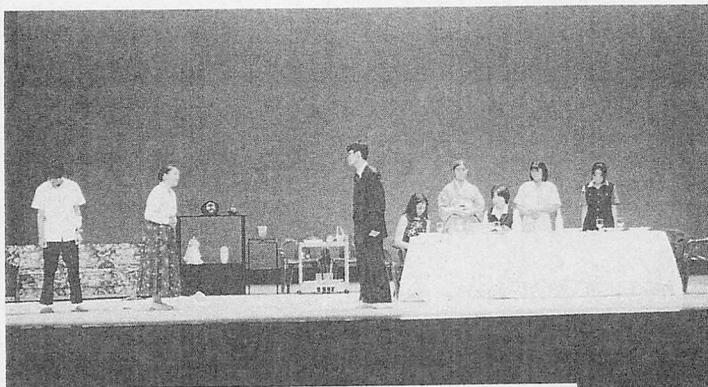
10月4日(土)5日(日)、下関の文化会館で開催。県下4地区から選ばれた8校の意欲的な発表でした。華陵高校・新南陽高校(周防地区)、防府西高校・西京高校(山防地区)、厚狭高校(宇部地区)、豊浦高校・下関南高校・梅光女学院高校(下関地区)。

ただ、平素自校の舞台上で練習し演じているところから、大きい本格的な舞台上で色々な施設・機材を使いこなしての上演には、即座には連ならず、色々な苦勞をとまなう様子で、ことに他地区の各校で、多少の心配があったと思われます。とにかく場なれする必要があります。

とは言うものの本年度の県大会の舞台は、観客の目を楽しませる要素を多分に持っていたようです。各校の演技一つ一つの個性、キャストの持ち味、創作劇に盛り込まれたテーマ、舞台・道具造りの工夫とバラエティーなど印象に残るものがありました。

閉会式、及び幕あいの講評で、講師篠崎光正先生にご指摘いただいたことは、実に懇切なもので平素の練習方法から、声の稽古、呼吸法、小道具の使い方・生かし方、舞台転換の練習の必要なことまで、基本の大切さを改めて教えられたのですが、特に人物の性格描写について、台本を読み合う時点から集中して、深く、こまかく、時間をかけて研究すること。魅力ある人物が舞台上に演じられなければならないこと。このお話が殊に印象的でした。そのためには、感動する心を素直に持って自分を磨くこと、それこそが演者として個性ある存在となる道でもあることを示唆していただいたのです。

中国大会に選ばれた2校に少しふれておきます。豊浦高校は、男子生徒の個性的な演技とテンポある舞台運びで楽しませてくれました。華陵高校は、県ゆかりの詩人、金子みすずを取り入れた創作。現代高校生とうまくからませて描いてくれました。



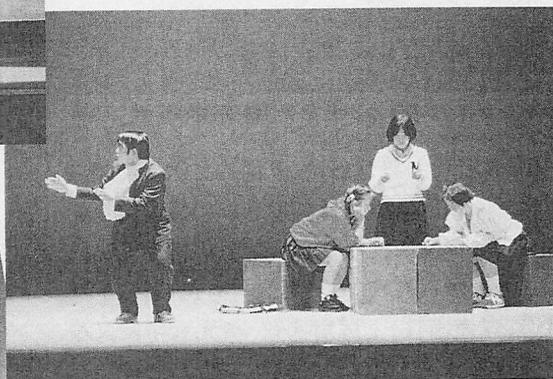
▲「ストレイシブ」新南陽高等学校



▲「ピフロストの橋」厚狭高等



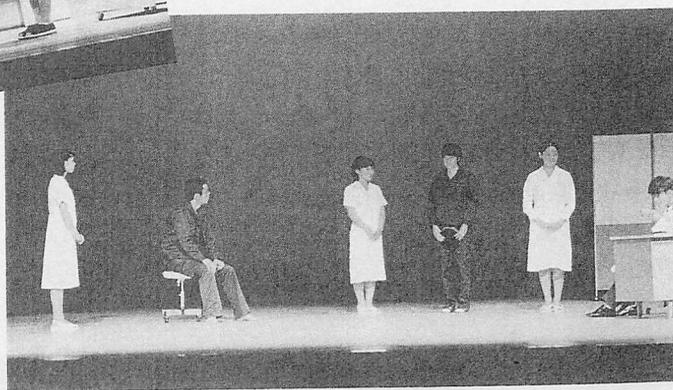
▲「スナフキンの手紙」梅光女学院高等学校



▲「犀 思い出のコウイチロウ君へ」
西京高等学校



▼「時代のキャラメル」下関南高等学校



▲「第一精神病棟」防府西高等学校

放送部門

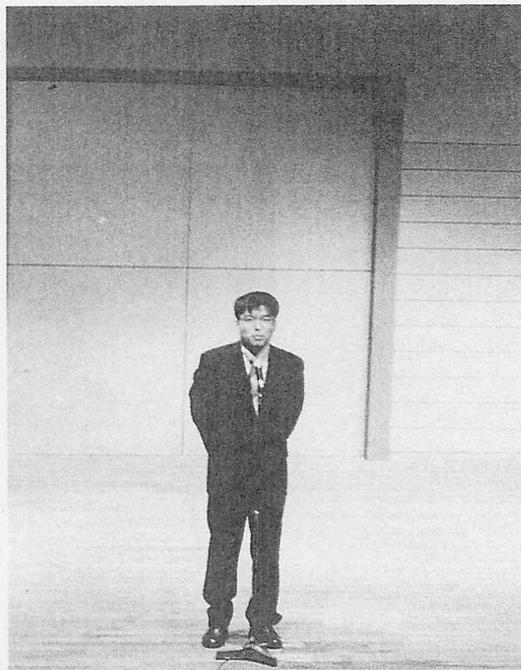
会場：ニューメディアプラザ山口

理事長 青木幸子
(山口農業高等学校教諭)

11月9日、山口農業高等学校主管のもとで、第4回放送部門大会が、ニューメディアプラザ山口を会場に行なわれました。参加人数・参加作品数も過去最大となりました。前日の準備からスタートした高文祭放送部門大会は、学校間の交流を深め、当日は、緊張感の中にも、あたたかな空気の流れる大会となりました。

アナウンス部門においては、郷土山口を全国にアピールしようと、様々な角度から取材を重ねた成果が感じられました。自分の町をみつめることで、今まで気付かなかった多くのものを発見した、そんな驚きと喜びが多くの人のアナウンス内容にあふれていました。平易な言葉で―即ち―自然な話し方で、語る事によって、自分の素直な思いが表現できた。そんな人が多かったように思います。技術的には、無声化、鼻濁音など、まだまだ不十分なところもありますが、「私の思いを私の言葉で伝える」という意味では、多くの人が成功し

▼アナウンス風景



▲審査員講評

ていたように思います。

朗読部門は、一昨年前の流れにもどり、郷土の作家、もしくは、郷土を舞台にしたものが課題でした。伊集院静、宇野千代、高木のぶ子、古川薫等に集中しがちなところもありましたが、作家・作品を捜し研究していくプロセスで、アナウンス部門同様「ふるさと発見」の思いを抱いた人が多かったようです。

ビデオメッセージ部門においては、学校にスポットをあて、部活動、モニュメント、校内のスポットそして生徒の活動の場と、アプローチの仕方は様々でしたが、対象をみつめるまなざしのあたたかさを感じさせるものばかりでした。

オーディオピクチャー部門は、平成10年の全国大会開催県鳥取県の希望により「童謡・唱歌を

素材にした内容」というテーマのもとに構成された作品が登場しました。童謡の「ぞうさん」「やぎさん郵便」にスポットをあてたもの、童謡詩人「まどみちおの世界」を描いたもの、同じく仙崎の生んだ詩人「金子みすず」の詩にスポットをあてたもの、さらに「小さい秋みつけた」と称して、山口の秋を歌とともにつづっていくファンタジックな手法など、バラエティーに富んだものばかりでした。

その中から次の生徒及び作品が、来年度の鳥取大会に推薦されました。

- <アナウンス部門> 岩国高校 田中絵理
下松高校 吉田紘子
萩高校 吉屋育恵
- <朗読部門> 岩国高校 佐藤恵理子
萩高校 吉屋知尋
山口農業高校 岡田憲和
- <ビデオメッセージ部門>
山口農業高校「ボクは農高のブタ」
- <オーディオピクチャー部門>
山口農業高校「いただきます」

▼県総文／放送部大会 受付風景



将棋部門

会場：中国新聞山口支社

理事長 **弘中敏之**
(下松高等学校教諭)

平成9年度の第19回山口県高等学校総合文化祭将棋部門は、第21回全国高等学校総合文化祭および第33回全国高等学校将棋選手権大会山口県予選を兼ねて、平成9年6月1日、専門部のトップを切って開催されました。専門部として2年目の開催ということもあり、他の関係諸団体の厚い御協力の下、高文連会長森本紘史先生、指導課指導主事三原祐人先生、高文連事務局長中呂立夫先生をお迎えすることができました。

参加校は13校で男子43名の参加があり、団体・個人戦とも熱戦が繰り広げられました。結果は次の通りになりました。

<団体戦>

- 優勝 柳井高等学校……濱元秀明
向井克規
河村浩二
- 準優勝 宇部高等学校……桧垣克成
松本祐一
浦野浩一
- 3位 下松高等学校……中原幸一
山本伸一
近藤和弘

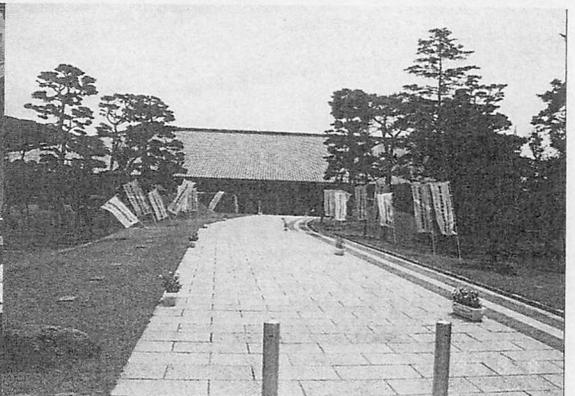
<個人戦>

- 優勝 金築克祐(厚狭高等学校)
- 準優勝 藤井佳久(宇部高等学校)
- 3位 鹿島 忠(柳井商業高等学校)

なお、団体戦・個人戦の優勝者は、奈良県香芝市で行なわれた全国総文に出場しました。今後は、さらに、女子生徒の参加等、より多くの参加を期待しています。



第21回全国高等学校総合文化祭の記録



第20回奈良大会テーマ

『咲かせよう 創造の華 万葉の風に誘われて』

全総文参加校一覧 (山口県高文連)

部 門	高 等 学 校	人数	備 考 (演奏曲目・作品等)	
パレード	県立佐波	(35)	マーチングバンドに出演	
	宇部女子	(17)	パトントワリングに出演	
	三田尻女子	(19)	(4校合同出演)	
	早 鞆	(5)		
合 唱	県立萩	70	混声合唱 湯き『宇宙への手紙』より	
吹 奏 楽	市立下関商業	50	バレエ組曲『ロミオとジュリエット』より、他	
	器楽管弦楽	県立岩国	40	『若人』『山嶽詩』
日 本 音 楽	県立徳山	6	箏曲『よろこび』筑紫 歌都子 作	
マーチングバンド	県立佐波	35	『重源の里と奈良のかけはし』	
パトントワリング	宇部女子	17	F I E S T A トロピカル	
	三田尻女子	19	(3校合同出演)	
	早 鞆	5		
美 術 ・ 工 芸	野田学園	1	油彩 F20号『自画像』	土山 直也 (3)
	県立西京	1	デザイン B1『デザイン』	山川 由利子(3)
	県立宇部	1	油彩 F30号『発動機』	中明 聖晴 (3)
		-	油彩 F30号『牛骨のある生物』	平田 哲夫 (3)
書 道	県立宇部商業	1	デザイン B1『有刺鉄線』	深川 智世 (3)
	県立防府	1	全紙(縦)臨『禮器碑』	桑原 由香梨(3)
	県立下関西	1	半切(横)臨『関戸本古今集』	原田 あゆみ(3)
	県立下関第一	1	175cm×55cm 臨『孔子祠堂碑』	岡崎 寛隆 (3)
写 真	萩光塩学院	1	聯落ち 臨『蜀素帖』	山下 美恵 (3)
	県立熊毛北	1	全紙 臨『階段』	浦 久美子(3)
	県立南陽工業	1	全紙 臨『お父さんといっしょ』	佐伯 健太郎(2)
	県立美祢工業	1	組写真 臨『時間の狭間』	村上 純 (3)
		-	全紙 臨『スプラッシュ』	岡崎 貴博 (2)
	県立小野田工業	-	全紙 臨『何してござる?』	佐藤 陽平 (2)
囲 碁	県立徳山	1	団体戦(男子)	水津 崇文 (3)
	県立防府	1	個人戦(男子)	山田 規昭 (3)
	宇部女子	1	個人戦(女子)	今井 由美子(3)
	県立下関南	1	団体戦(女子)	秋本 端矢江(3)
	県立萩工業	1	団体戦(男子)	横田 尚之 (3)
放 送	県立岩国	1	朗読『秋篠寺の技芸天』	村本 怜子 (3)
	高 水	1	朗読『伊勢物語』	清水 麻未 (3)
	県立下松	1	アナウンス『キツネの嫁入り』	岡崎 藍 (3)
	県立華陵	1	アナウンス『アニオンハセヨ』	渡邊 ゆかり(3)
	県立山口	1	アナウンス『時間と空間をこえて』	焼岡 洋子 (3)
	県立山口中央	1	朗読『西鶴名作集』	高木 理英子(3)
	野田学園	1	ビデオメッセージ『大仏のふるさと山口』	
県立山口農業	2	オーディオビクチャー『農高の愉快な仲間達』		
将 棋	県立厚狭	1	個人戦(男子)	金築 克祐(2)
	県立柳井	3	団体戦(男子)	濱元秀明(3) 向井克規(3) 河村浩二(3)
小 計		272		
合計30校(延べ39校)		参加生徒数 272名	総合開会式における生徒代表1名 山口県立美祢工業高校 3年 村上 純(写真部門参加生徒)	

器楽・管弦楽部門

会場：新庄町文化会館

岩国高等学校

3年 勝野 真士

最初、顧問の先生から奈良で行なわれる「全国高総文祭」のことを聞いた時、全国のステージで演奏することを心から喜んでいました。しかしその後、我が部の第50回定期演奏会が全国高総文祭の2ヶ月前にあるということで、多少の不安を感じ始めました。そのため演奏曲目を決めるのに相当時間がかかりました。そして結論として大きなステージでの演奏を楽しみ、1年生も自信を持って弾けるような曲にしようということになり、「山嶽詩」と我が部のテーマ曲である「若人」の2曲にしました。1年生は6月の定期演奏会が終わってからこの2曲を本格的に練習したのですが、すぐ2・3年生と合奏できるようになっていたのを助かりました。

8月9日、奈良へ出発し、いよいよ本番の翌8月10日、旅館から演奏会場である新庄町の「マルベリーホール」に着くとかなり緊張してくるのがわかりました。僕達の演奏まで他校の演奏を聴いたのですが、さすが全国から集まってくるだけあって、同じマンドリン合奏をする学校

ではコンクールに出場して数々の賞を取り、今回奈良に来て演奏するという学校もありました。同じマンドリン演奏をする者にとっては、そのような学校の演奏は特に素晴しく感じられました。またさまざまな学校や団体の演奏を聴いて、今まで以上に音楽に対して興味を持ち、視野が広がりました。そして演奏することがますます好きになりました。

さて、僕達の順番がきてステージに立ったのですが、その途端に曲選びが良かったこともあってそれまでの緊張も吹き飛び、自信を持って演奏ができました。ステージでの演奏時間は短かったけれど、指揮者と演奏者が一体となり現役最後のステージが満足できるものとなったので感無量でした。3年生は従来より2ヶ月長く部活をやったことになりましたが、出演させていただいて本当に良かったと思います。

演奏終了後、他校の演奏を聴いていると今までの練習の思い出が重なり、このような経験のできる全国高総文祭の素晴しさを改めて実感しました。貴重な経験をさせていただき、本当に有難うございました。



▲岩国高等学校

合唱部門

会場：大和郡山市総合公園多目的体育館

菟高等学校

3年 田村 典子

平成9年8月8日、奈良県大和高田市の大和高田市文化会館・さざんかホールで行なわれる、第21回全国高等学校総合文化祭に出演する為、小郡を出発しました。

その日、各校代表が集まる交流会に出席する為、宿から電車でホールのある大和高田市まで行くと、駅には役員らしい生徒2人と先生がおられて、ホールまでの道順を教えてもらい、山口県の話やクラブの話等たわいない話をして、ふと「いつからここ（駅）にいらっしゃるんですか。」と聞くと「朝8時から交代で案内しています。」と言われ「大変ですね。」と言うと、「いろいろな県の人達といろいろな話ができるので楽しいですよ、明日はホールの方へ行くので、演奏楽しみにしています。」と言われ、あらためてこの大会の規模の大きさと、それを支える役員の方達の陰の努力をかいま見たような気がしました。

次の日、演奏が朝一番ということや、この日歌った「渇き」という曲を舞台上で演奏すること

歌った「渇き」という曲を舞台上で演奏することが初めてということもあって、緊張しながら本番を待つ間も案内の人達に「応援していますから頑張ってください。」と声をかけられ、緊張しながらも、とても優しい気持ちで舞台上に上がりました。

ホールもよく響く立派なホールで、気持ちよく歌うことが出来、歌い終わった時すごく満足感があったことを覚えています。いつも舞台というとコンクールの場合が多く、自分達も会場内もピリピリしている雰囲気ですが、この日はなごやかな中で、のびのびと歌うことが出来たような気がします。この舞台のことは、これからいろいろな舞台上に上がるたび思い出すでしょう。ずっとこの気持ちを忘れず、歌を歌っていたら良いと思いました。

山口県の高文連事務局の先生方にも大変お世話になりました。大切な思い出になった舞台上に立てるチャンスをいただいて、本当に感謝しています。これからこの経験を生かして、聴く人を感動させられる歌をめざして頑張りたいと思います。



吹奏楽部門

会場：奈良県文化会館国際ホール

下関商業高等学校

3年 村田さおり

8月7日から「咲かせよう 創造の華 万葉の風に誘われて」をテーマに全国高等学校総合文化祭が開催されました。そして私達は山口県代表として、9日の吹奏楽部門に参加するために奈良へ出発しました。

本番前日、奈良県立高円高等学校の音楽室をお借りして、1時間半程りハーサル練習を行いました。しかし、自分達のいつもの調子がかめないのです。何度繰り返してもうまくいかず失敗を繰り返してばかり……。「本番、このまま舞台に立つのはイヤだ。」

旅館で、私達は出来る限りのことをすることにしました。パートごとにスタンドプレイの練習やマウスピースでの合わせ、楽譜を見直したりもしました。これらのことが、本番の演奏にどんな風な結果を出せるのか、結果なんて出ないのかさえも私達にはわかりません。ただ、それでも何かを得たくて、手を伸ばし続けたのです。

そして本番当日、不安と期待を抱きながら、私達は会場まで歩いていきました。初めてのホール、そして、初めての「全国」という大きな舞台。会場での音出しは45分間。ひとりひとりの音を集めて、気持ちをひとつに下商サウンドをつくり上げます。私達は「感動を求めて～笑顔あふれる演奏を～」という目標を胸に、本番に挑みました。演奏を終えて、盛大な拍手をいただき

きました。全く自分達の納得のいく、満足のいく演奏とは言えなくて、たくさんの方が喜んでくださって嬉しい反面、悔しくも思いました。けれど、本番前日に旅館で練習したことは無駄ではありませんでした。本番の結果にはあまりプラスにならなかったかもしれませんが、それからの私達には大きなプラスになりました。今までにない満足のいく演奏をすることができました。奈良である時、あきらめることを選ばなかったから、大きな感動を得られたのでした。全総文で得たものは、とても大きな力でした。どんな時間でも無駄ではないこと、どんなときも、途中であきらめたりしないことです。いつもとは違う、忙しい日々で、たくさんのことを乗り越えて、手を伸ばし続けた私達ですが、奈良での思い出は深く心に刻み込まれたと思います。

最後に、この全総文に出場するにあたって、いろいろな方面からの沢山のご支援やご協力をいただきました。心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。



マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：天理大学体育館

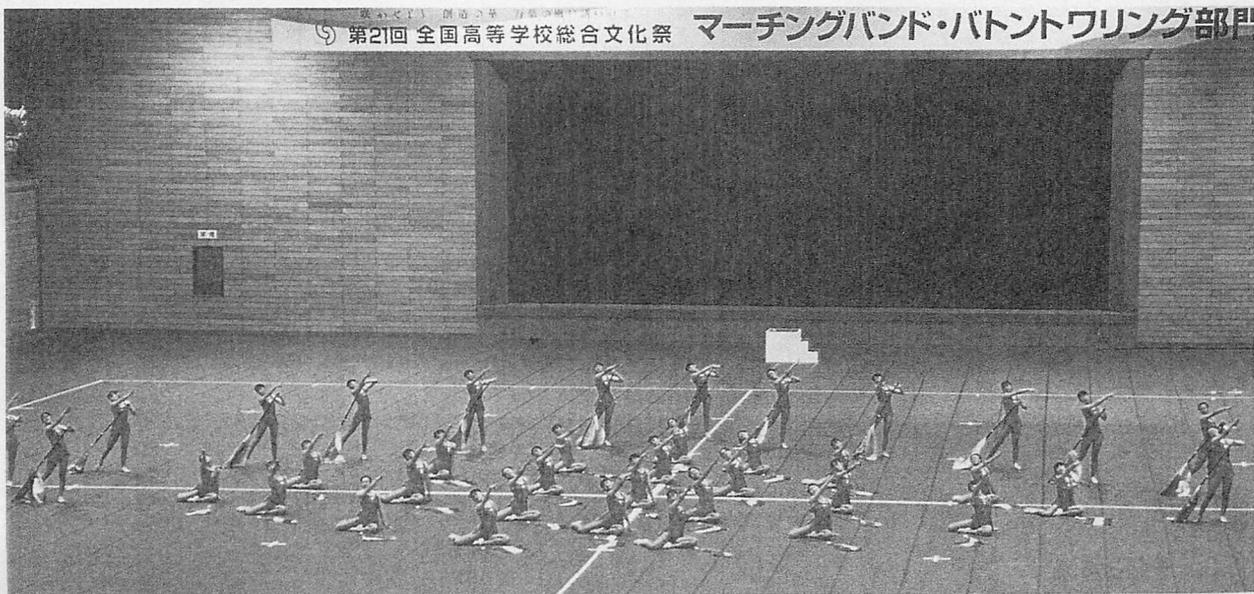
今年度の全国高等学校総合文化祭『奈良大会』には、マーチングバンド部門に山口県立佐波高等学校の生徒35名が参加し、バトントワリング部門に早軀高等学校、宇部女子高等学校、三田尻女子高等学校の3校の生徒41名が参加しました。

三田尻女子高等学校

バトン部 池田 忍

1997年全国高等学校総合文化祭は、長い長い歴史と文化の都・奈良で開催されました。全国各地から集まった、たくさん的高校生たちの熱気のせい、それとも晴天のせい、とても暑く、町全体が輝いて見えました。8月9日天理大学体育館でマーチングバンド・バトントワリング部門の発表会が行なわれました。入場口の扉が開く前、緊張した表情の中に笑顔が見られたのですごく安心しました。そしてフロアでの演技。ワンスピンは絶対に落とさない、あとは元気いっぱい笑顔で踊ろう、と自分自身で決

めて踊りました。演技をしている間、いろいろなものが頭に浮かんできました。勉強とバトンの両立で悩んで、何度か挫折しそうになった時、先生方や部活の友達に励ましてもらったこと。今になって考えてみると、たくさんの人々に迷惑をかけてしまいました。3年間バトンを通して感じてきた、いろいろな思いが天理大学の体育館でよみがえってきました。大規模なパレードに参加するのは初めてで、すごく緊張しましたが、沿道の人たちの拍手や声援で緊張もほぐれ、堂々とパレードすることができ、参加できて本当によかったと思いました。3年前、初めてバトンを持ち、芽を出した私たち、去年やっと蕾になり、今年奈良大会ですばらしい演技ができて一輪の花となって咲くことができました。私たちにこれまで、水や肥料を与えてくださった先生方や、陰で支えてくれた家族に声を大にして『ありがとう』といたい。



▲三田尻女子高等学校・宇部女子高等学校・早軀高等学校

県立佐波高等学校

マーチングバンド部

私たちの佐波高校は徳地町の中心地にあります。その昔、高僧・重源（ちょうげん）の指導のもと、木こりたちの手によって徳地の山々の木を切り、筏に組んで佐波川を下り、瀬戸内海を渡りました。その材木が奈良東大寺の建立に用いられたことから徳地町は『重源の郷』と呼ばれています。その古来ゆかりの地・奈良での全総文に出場できることは私たちにとって格別な喜びでした。そのため、今年は特別なマーチングにしたいという意気込みで、まず、重源にちなんだ伝統芸能『重源太鼓』を取材・研究しました。10年来伝承している引谷小学校や地域の寺社から太鼓をお借りしたり、マーチングに合うように演出したり、曲の感じに合った振り付けをする等の作業を経て『重源の郷から奈良へのかけはし』ができあがりました。夏の厳しい陽射しのもと全国のマーチング仲間と会えることを励みに、納得するまで一日中練習を続けました。心身共に限界との闘いでした。しかし、8月の奈良で全国の仲間と、その喜び苦しみを分かち合った瞬間、無心に『全力を尽くす』ことに集中できました。あの時に私たちの中に生まれた『不思議な力』を一生忘れません。



日本音楽部門

会場：天理市民会館

理事長 河村加南子
(徳山高等学校教諭)



第21回全国高等学校総合文化祭

▲徳山高等学校

徳山高等学校
3年 兼重 美鈴

本校邦楽部が夢の全国大会に出場できることになり、度胸のいいのが伝統の徳高生も、さすがにやや緊張気味で、天理市に乗り込みました。リハーサルの時から会場に流れる演奏に一同あっけにとられて、緊張感はますます高まりました。

しかし、舞台にあがったら6人の息はピッタリで自己最高記録の演奏をしてくれたので、顧問としても満足しています。

暑い中、心のこもったサービスをしてくださった奈良県の教職員の方々や、生徒の皆さんにお礼を申し上げて、全国大会の報告といたします。

8月9、10日に開催された第21回全国高等学校総合文化祭・日本音楽部門に私たち徳山高校邦楽部は参加させていただきました。私たち全員3年生ということもあり、なかなか全員揃っての練習というものができませんでしたがそれでも全員が揃った時には、その貴重な時間内を集中して練習してきました。他県の演奏を聴いてみて、全国レベルと自分たちの力の差というものを目の当たりにし、舞台の袖ではさすがに緊張してしまいましたが、舞台では、私たちが和気藹々とした雰囲気の中で演奏することができ、満足しています。

また、日頃めったに目にする事の無い舞臺「太平楽」を鑑賞するという貴重な体験ができ嬉しく思っています。

全国大会出場は、このことを通じてさまざまな体験をする事が出来、非常に思い出深いものになりました。このような貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

美術・工芸部門

会場：奈良県立美術館

宇部高等学校

3年 中明 聖晴

今回の全国高校総文祭奈良大会は、進行が少し悪かったと思いました。パンフレットの説明が不足していたと思うし、絵の派配置のしかたも、あまり良くなかったと思いました。

作品については、絵画では東北地方が良かったと自分は思いました。自分が期待していた東京の絵画が、思っていたほどではなかったので、少し残念でした。でも、全体的に見て、どの地域もレベルにそれほど大差がないことに気が付きました。その他については、工芸が良かったと思いました。開催地である奈良の作品は、数多く出品できるのはいいけれど、もう少し厳選してほしかった。全国高校総文に出品するのは初めてだったので、全国のレベルを知ることができて、よかったです。

奈良にせっかくきたので、東大寺周辺や正倉院など先生と共にスケッチ（着彩）しました。それをモチーフに油絵を描いてみようとおもいます。また奈良市内にあります東京芸術大学の研究室にも行けたので、よい経験ができました。

野田学園高等学校

3年 土山 直也

総文祭では美術工芸作品の講評を聞くことができました。講評は美術の教科書でも有名なデザイナーの田中一光先生が行なわれ、先生が選んだいくつかの作品についてくわしく講評していただきました。僕は講評会というところ堅苦しく真面目な雰囲気とと思っていましたが、田中一光先生がユニークな人で、楽しくてわかりやすい作品の講評が聞けました。先生の講評はなるほどと思うところが多々ありとても勉強になりました。また、その他で総文祭で驚いたことと言えば、参加した生徒が全員とても気さくな感じ

がして明るい人だったということです。僕はこの総文祭に参加する前、総文祭に参加するぐらいだからみな生真面目な人達ばかりだと勝手に思い込んでいました。しかし、そんなことはまったくなく、逆におもしろそうな人達ばかりだなと思いました。

総文祭では交流会というものがあり、僕もそれに参加しました。交流会では全国から集まった高校生といっしょに風船のようなものを造りました。最初は少し暑くない雰囲気だったけれど、制作していくうちに和んできて最終的にはとても良いものが出来上がったと思います。また交流会は真夏の1時ごろから行なわれたのでとても暑かったのですが、地元の奈良の高校生が一生懸命に仕事をしていて、それがとても印象に残りました。会場の準備や式の進行などすべて高校生を中心として行なっており、そういったところにもとても感心しました。交流会では美術工芸に興味あるひとばかり集まったのでうまく打ち解けることができ、良い思い出になりました。

総文祭のことをふり返ってみて思うのですが、やはり作品を造るということは楽しんでやらなければならないんだということです。総文祭には写真の展示もあり、僕は写真のことはよくわからないけれど、どれもおもしろく個性的な作品で、みんな楽しんでやっているというのはわかりました。僕もこれから美術を一生懸命に、そして楽しんでやっつけようと思います。全国高校総文祭に参加できてよかったです。

西京高等学校

3年 山川 由利子

展示してある他県の代表作は、どれも皆力作ぞろいで、皆素晴らしい作品ばかりだった。その作品をじっくり見ていると、私の中で勝手に形づくられていた「絵」というものが崩れていく様な気がした。力強い作品もあれば、繊細そうな作品もあり、原色しかないと思う作品もあれば、多彩に色を使った作品もありと、ありとあらゆるテをほどこした作品ばかりだった。そのような力作ばかりを見た後で、もう一度ゆっくり自分の作品を見つめ直すと、何だか、今すぐにでも持って帰りたいような気持ちになった。他の作品と比べて、私の「絵」は、あまりにも力がなくて、弱々しい感じがしたのだ。きっと、今回の作品の「絵」は、私のこうならねばいけない「絵」がつまっていたのだと思う。こうじゃなければ「絵」じゃない、「絵」というものはこうじゃなければいけない。そんな考えでガチガチにかためられてしまっていたのだと思う。私の「絵」は、「考え」が先行していて「力」がなかったのだ。しかし、他の作品には充分すぎるほど「力」がかんじられたのだ。「力」があれば、その人の考え、おもっている「考え」が後からついてくるものなのだ。「考え」も大切だけれど「力」を持ってこそ「絵」が成立するものだろう。今回、全国大会に出展させてもらい、また、奈良県まで連れて行ってもらったことに深く感謝しなければならぬ。私のガチガチに固まった考えを、根元から解きほぐすきっかけをつくっていただいたのだから。

宇部商業高等学校

3年 深川 智世

特に私の中で印象に残った思い出は、美術・工芸部門の何百点もの中から、私の作品が、田中一光先生に講評していただいたことです。まさか選ばれるとは思ってもみなかったので、スクリーンに自分の絵がでた時は、本当にうれしかったです。このことによって、自分の作品に自信をもつことができるようになりました。

そして、美術・工芸部門に限らず、演劇や吹奏楽などのステージも、奈良の高校生達が、一丸となって積極的に取り組んでいて、大変すばらしかったと思います。他県との交流や、たくさんのイベントに、本当に一生懸命で楽しんでいる姿は、高校生らしい、とてもいい大会であったと思います。

この大会に参加することができて、私の視野はもっと広がり、たくさんの世界を知ることができました。これから、将来に向けてもっともっと勉強していかなければならない今、私にとってこの大会はたくさんの刺激を与えてくれ、そして私が絵を描いていく上での大きな励みとなりました。今回参加することができて、本当に良かったと思います。



写真部門

会場：奈良県新公会堂能楽ホール

熊毛北高等学校

3年 浦 久美子

平成9年8月7日（木）奈良県で開催された第21回全国高等学校総合文化祭に、引率の先生と共に参加させていただきました。

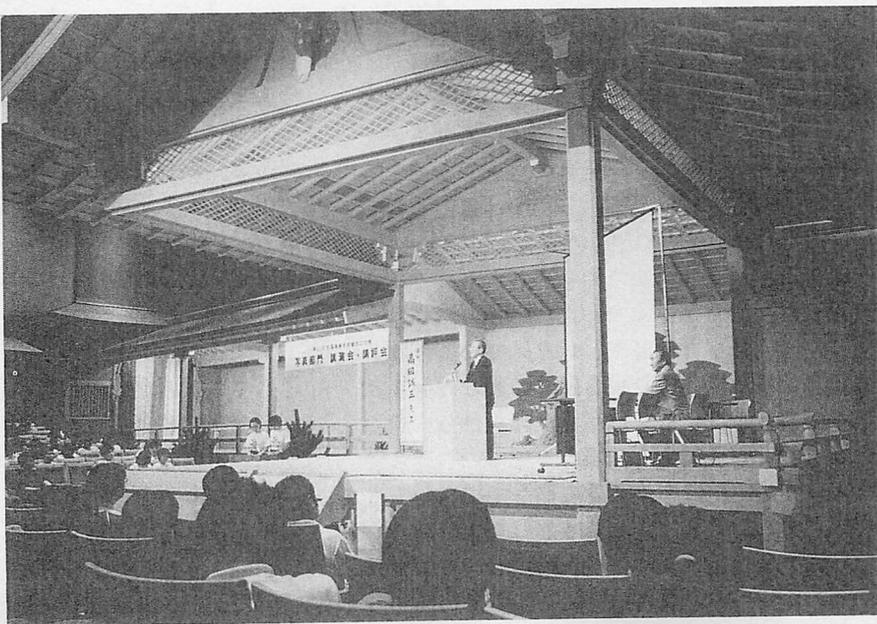
奈良を訪れたのは、中学校の時の修学旅行以来でしたので、右も左も分からないまま、引率の先生に頼りっきりで奈良講演内にある会場へ向かいました。途中、奈良県ならではのたくさんの鹿がかわいい目をして私たちを迎えてくれました。展示会場である奈良県新公会堂へ着くと、先ず自分の作品を探し、入賞しているかどうか確認しました。結果は残念なことに、賞をいただくことはできませんでしたが、他県から出品された多くのすばらしい作品と一緒に、自分の作品が並んでいるだけで満足でした。それから、先生と一緒に全国から出展された288点の写真を鑑賞して回り、その一つ一つの様々なことを教えられ、勉強させていただきました。

入賞になっていない作品でも心を打つものがたくさんありました。私の作品を見て、少しでも心に残してもらえる人があれば幸せだと思います。

新公会堂の能楽ホールで行なわれた講演会では日本写真家協会会員・写真家の矢野建彦先生が、今までに写真を撮ってこられて感じられたことや、撮影の時の苦勞などを素人の

私にも分かりやすく、ていねいに教えて下さいました。またそのあと、同会場で行なわれた講評会では、大阪芸術大学教授・高田誠三先生から入賞作品について、その作品の特徴と、とらえ方、印象的な被写体をどのような視点でとらえるかということなどについて詳細な解説をいただきました。両先生のお話を伺って、これからはずっと写真を撮り続けていきたいという気持ちがより大きなものになりました。

今回の総合文化祭に参加できましたことは、やはり、自分の努力だけではなく、何も分からなかった私に、一から教えて下さった先生方や、県大会への出品の際、トリミングで私のわがままを聞いて協力して下さいました先生方のお陰だと思っております。また、全高総文への出展その他に際しましては、山口県高文連の関係の先生方には大変お世話様になりました。紙面をお借りしまして、厚くお礼申し上げたいと思います。



書道部門

会場：東大寺大仏殿回廊

『歴史の町、奈良にて』

防府高等学校

3年 桑原 由香梨

大会の数日前、奈良の高校生から「待っています」と手紙が来ました。すっかり心は奈良に飛び、期待で胸が膨らみました。

展示会場は世界遺産の東大寺の大仏殿。私達にとっては、またとない最高の舞台が用意されていました。雄大、崇高な大仏殿、その回廊で自分の作品を見つけた時はうれしくて胸がいっぱいでした。

2日目、桜の香る能楽ホールで行なわれた講評会では、過分な評価をいただき今後の励みになりました。薬師寺、興福寺などを歩き、歴史の中に浸った3日間でした。改めて日本の文化のすばらしさを知り、書道をやっていてよかったです。

奈良の皆さん、思い出をありがとうございます。

『視野が大きく広がった全総文参加』

下関西高等学校

3年 原田 あゆみ

紙に寺を書くという一見誰にでもできる作業から、すばらしい作品を創り出す「書道」という芸術に、私は改めて深く感動し、胸踊らせた。

会場には様々な思いで創りあげられたであろう作品がずらりと並んでいた。感嘆の溜め息が出るくらい見事な作品や、ただ見ているだけなのに息を飲むほどの緊張を感じさせる作品など様々であった。そんな作品を眺めながら人間の創造するという能力の無限性を感じた。そしてそんな作品の中にある自分の作品を誇らしくも思い、また少し恥ずかしくも思った。

この大会の参加で私が学んだことはとても多かったが、一番の収穫は私自身の書道に関する

視野が大きく広がったことだ。

『全国には凄い人達がいるもんだ!』

下関商業高校

2年 岡崎 寛隆

全国高校総合文化祭の書道部門に参加して、たくさんの人の作品を見て、みんな上手だなあと思いました。中には、友人との合作を出品している人もいれば、大きな字をダイナミックに書いている人、小さな字を数多く書いている人など様々でした。すべての作品を見て、全国には、すごい人達がいるんだなあと思いました。

交流会では、みんなの前で字を書くコーナーが設けられていて、とても緊張しました。人によっては、手がふるえて字にならない人もたくさんいたようです。度胸だけで、一字だけを書きました。その後の筆作りでは、それぞれが持って来たいろいろな素材の穂先でオリジナルの筆を作りました。初めての経験だったのでとても楽しかったです。

季節が真夏で、会場は非常に暑く、奈良公園にいる鹿のフンの臭いも非常に強烈でした。でも、笑いあり涙ありの3日間で、新しい友達もでき、高校生活においてとてもよい思い出になりました。

『他からの刺激の大切さを実感!』

萩光塩学院高等学校

3年 山下 美恵

この総合文化祭に出品された私の作品は学校の合宿で書き上げたものです。八月の暑いさ中徹夜で何枚も何枚も書き、苦しかったけれどもさすがにうれしさが込み上げてきたことを思い出されます。奈良の東大寺に展示されている全国からの高校生の作品を見ると、今後自分がどのような作品に取り組むべきか、様々な

ことを考えさせられて、また新たな目標ができました。作品の一つ一つにそれぞれの個性があり努力の跡が伺えました。今まで私は自分にとって書きやすい書体の作品ばかりを書いてきましたが、いろいろな特徴のある書体なども自分のものにしていけるように、もっと視野を広

げなければと思いました。また書いて練習することだけではなく、他の人の作品を見て刺激されることも大切だと思いました。これからはここで得た体験を生かし、よい作品を書くことができるように努力していきたいと思います。

第21回全国高総文祭の記録

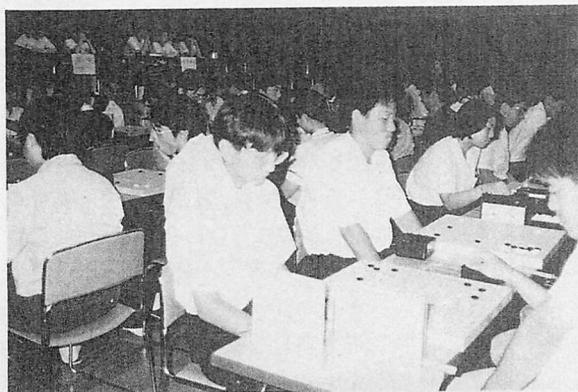
囲碁部門

会場：川西文化会館

理事長 **井口秀是**
(防府高等学校教諭)

第21回全国高校総文祭囲碁部門第10回大会は、平成9年8月8日(金)、9日(土)奈良県磯城郡川西町文化会館で開催されました。団体戦は各都道府県から選抜された男子2名、女子1名のチーム編成で38チーム、個人戦は各都道府県から男女各1名ずつで、男子38名、女子36名合計188名の参加がありました。

初日は開会式後4回戦を行ない、2日目は残り2回戦を行なう、2日間の6回戦です。男女個人戦、団体戦ともに同時間に平行して行なわれ、オール互選のスイス方式という競技方法で行なわれました。



山口県からは、個人戦に個人戦に山田規昭(防府高校)・今井由美子(宇部女子高校)、団体戦に水津崇文(徳山高校)・横田尚之(萩工業高校)・秋本瑞矢江(下関南高校)の5名が参加しました。

戦いは勝者同士、敗者同士を組み合わせるので激しい星のつぶし合いで、しかも時計を使用しますので非常に激しいものがありました。そこには熱気と満足感が交錯し、局後の和やかな感想戦はさわやかなものでした。戦績は次の通りです。

<個人戦>

山田 規昭 (5級) 2勝4敗 第33位
今井由美子 (三段) 4勝2敗 第11位

<団体戦>

水津 崇文 (1級)
横田 尚之 (1級) 3勝3敗 第21位
秋本瑞矢江 (初段)

なお、山田規昭君の2勝は立派の一語に尽きます。自分より上位者との戦いの中で精神力の強さの光った2勝です。団体戦の3勝も特筆もので、秋本さんの全勝と水津、横田両君の勝ち

がうまくかみ合いました。お互いの気持ちが通じ勝利をもぎとった感じです。

能楽の観阿弥・世阿弥親子の結崎座（観世）の発祥のこの奈良県結崎町で全国大会が行なわれたことは感慨深いものがあります。神秘的で哲学的ゲームの囲碁が高校生生命のパネになるために、静かに着実に根を張ることを夢見ます。



第21回全国高総文祭の記録

放送部門

会場：奈良女子大学

山口中央高等学校

3年 高木 理英子

「し、鹿がいる。人と車に混じって鹿がいるのだ、街中に！」

私は奈良の異常な暑さで頭が変になったのかと思った。確かに、ここ奈良の名物といえば大仏と“しか”。実際、大会マスコットのナラちゃんもブタ君“しか”だ。しかし、まさかこんなに鹿がいるとは…。しかも、誰もそれを気にする様子はないようだ。普段あまり「鹿」を見ることのない私は、奈良について時、こんなカルチャーショックを受けた。

大会会場の行き帰りにも本当によく鹿を見かけた。こんなにたくさんいて被害はないのだろうかと思っていたら、大会2日目にあったビデオレポート部門で、奈良の鹿について調べた学校の作品によると、「家に帰ったら鹿がいた」とか「鹿がお店のものを食べたのにお金を払わな

かった」などの被害があるそうだ。実際、私もこのビデオレポートを撮っていた本人達が台本を食べられているのを目撃した。

さて、私の出場したアナウンス・朗読部門は奈良女子大学の記念館というところで行なわれたのだが、なんとこの記念館は重要文化財なのだそうだ。そう聞くと、何やら古くさい妙な建物だと思っていたものが、なるほど、見れば見るほど味のある、古都奈良にふさわしい建物だと思えてくるから現金なものである。

そんな歴史ある建物の中で、私は山口県代表として、普段使わないような思いつき山口弁を使って皆様にご挨拶…。(緊張したり、恥ずかしがったりすることのめったにない私だが、この時ばかりは、顔からファイヤー状態だった…)

さあ次に本番。自分の原稿を読む。ところが、なんてドジな話！全くありえないこと！私は練習中、読み間違えたことのないところを、より



によって本番に読み間違えてしまい大ショック。このせいで（と私は信じているのだが）入賞することができなかった。ザンネン。私以外の山口県代表の皆はというと、大奮闘にもかかわらず入賞は野田学園高校のビデオメッセージ部門のみ。これもちょっとザンネン。

ダンスをする名物先生と、にぎやかな先輩方にひかれて入った放送部。途中やめようかと

思った時もあったけれど、友達に支えられ（脅され？）3年間なんとか続けることができ、高文連の全国大会に出場させてもらえるようになった。残念ながらおしくも（？）賞は取り逃がしたけれど、高校最後の夏休み、暑くて鹿の多い歴史の町・奈良を見ることができ、とてもいい思い出となった。

第21回全国高総文祭の記録

将棋部門

会場：香芝市中央公民館

理事長 **弘中敏之**
(下松高等学校教諭)

第21回全国高等学校総合文化祭将棋部門兼第33回全国高等学校将棋選手権大会が、8月9・10日にかけて、奈良県北西部に位置する大阪のベッドタウン香芝市で開かれました。会場は、JR下田駅より徒歩10分、かつての「国のまほろば」らしい、落ち着いた雰囲気の中に在りました。運営についても、周到な準備を伺わせる、きめの細かなものでした。参加した生徒も、勝負はともかく、多数ご協力いただいた専門棋士の諸先生方の指導を受け、大変充実した2日間となったようです。ところで、参加校は、全国

41都道府県より126校、男子団体41チーム123名、男子個人41名、女子団体23チーム69名、女子個人72名、計305名が、盤上に火花を散らしました。

山口県の選手も健闘しましたが、団体戦の柳井高校が対古川高校（宮城）に惜敗、個人戦の金築克祐君（厚狭高等学校）が3回戦で全国高校タイトル2冠保持者の清水上徹君（札幌新川高校）と激突、勝運なく敗退しました。この貴重な経験を活かして、より一層の精進に励んでほしいと思います。

柳井高等学校
3年 濱元 秀明

平成9年の夏、第21回全国高等学校総合文化祭が『咲かせよう創造の華 万葉の風に誘われて』のスローガンで、奈良県下で開催されましたが、将棋部門は奈良県香芝市の中央公民館で行なわれました。団体戦と個人戦があり、僕は団体戦に出場し、同じクラスの向井克規君と河村浩二君と共に頑張りました。

僕達が将棋を本格的に始めたのは一年生の頃で、互いに遊びのつもりでするようになったのが、将棋のおもしろさを知り、どんどん熱中していきました。そして、ついに県予選で優勝することができて、全国大会へ行くことができることになりました。

大会前日に奈良に向かったのですが、盆地の奈良は大変暑く、気分転換のため宿舎の近くの奈良公園内を散歩したり、他県の選手と話したり、先生のアドバイスを受けていました。

そして大会当日、僕はかなり緊張していました。こんなに緊張して自分の将棋が指せる

のかという不安があり、だんだんあせりが出てきました。

気持ちを落ち着かす間もなく、宮城県立古川高等学校との対局は始まってしまいました。僕は序盤でリードしてそのまま押し切るという棋風にもかわらず、いきなり作戦負けになってしまいました。そして他の2人の対局も終わってしまい、負けてしまったことに気が付き、僕だけでもとねばりましたが駄目でした。

その日の夜はくやしくて、徹夜で福岡県の人達と将棋を指しました。一回戦負けという残念な結果になってしまいましたが、僕達は3年生なのでこの大会に再び出場することはできません。だから後輩達には、頑張って優勝してほしいのです。

しかし、他県の友達ができたり、プロ棋士との指導対局を受けたりと良い思い出もでき、将棋についての貴重な経験にもなりました。僕達は卒業しても将棋をやめることはないと思います。負けるととてもくやしいのですが、将棋は僕にいろいろなことを教えてくれました。



山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

番号	学校/事業	ピアノ	マリンバ	フルート	胡弓 トランペット	尺八と箏 オベレック	交響楽団	演 劇	金管合奏
1	安 下 庄	63				平7	平4※		
2	久 賀	63					平3	※	
3	岩 国								平1
4	岩 陽								平1
5	岩 国 商 業			平3				62	
6	岩 国 工 業						平2	平6平8	
7	坂 上			63			平5	平3	
8	広 瀬			63					
9	高 森						平2		
10	柳 井						平7		
11	柳 井 商 業								
12	柳 井 工 業							平1平4	
13	熊 毛 南	63					平6		
14	田 布 施 農 業						平3	平5	
15	田 布 施 工 業								
16	光	63					平8		
17	光 丘						平8		
18	熊 毛 北						平2	63平7	
19	下 松	63				平7			
20	華 陵	63					平8	平1	
21	下 松 工 業						平1		
22	徳 山		定平4			定平8定※			
23	徳 山 北	63					平4	平8	
24	徳 山 商 業		平5	63				平3	
25	徳 山 工 業							平4平7	平1
26	鹿 野		平3		※		平9	平1	
27	新 南 陽	63						平5	
28	南 陽 工 業		平1				62		
29	佐 波			63		平7			
30	防 府								
31	防 府 西						※		平1
32	防 府 商 業		定63					平6	平1
33	山 口		定62				平2		
34	山 口 中 央	63			※				
35	西 京	62					平4	平7	
36	山 口 農 業						平5	平3	
37	宇 部	63							
38	宇 部 中 央		定平1				※	63	
39	宇 部 西							※	
40	宇 部 商 業			63			62平6	平3	
41	宇 部 工 業			平2			平8		
42	小 野 田		定63						
43	小 野 田 工 業		定63					平4	
44	厚 狭			平1				平9	
45	美 祢				平9		平4	平2	
46	大 嶺	62	平4					63	
47	美 祢 工 業						63	※	

ピアノ……………弘中 孝
 マリンバ……………水野与旨久
 フルード……………西田直孝トリオ
 トランペット………田宮堅二

交響楽団……………山口県交響楽団
 尺八と箏……………中村明一、八木美知依
 胡弓……………姜建華・楊宝元

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

番号	学校 / 事業	ピアノ	マリンバ	フルート	胡弓 トランペット	尺八と箏 オベレック	交響楽団	演 劇	金管合奏
48	田 部						平1		
49	西 市						63		
50	豊 浦								
51	長 府								平1
52	下 関 西								
53	下 関 南								
54	下 関 第 一							平5	
55	下関中央工業							平6	
56	下 関 工 業	62						平2	
57	響		平5				平1		
58	豊 北	62					平3		
59	日 置 農 業	63	平5			平9		平2	
60	大 津	63						平5	
61	水 産								
62	萩	63					平3	平6	
63	萩 商 業	63					平7	平2	
64	萩 工 業						平6	平4平9	
65	徳 佐			分63			63※		
66	奈 古						平1平9		
67	盲	63	平3			平8※	平7	平1	
68	聾								
69	岩 国 養 護		平3					※	
70	田 布 施 養 護		平6				62		
71	徳 山 養 護			平1					
72	防 府 養 護	62	平3	63					
73	宇 部 養 護		63平5					平1	
74	下 関 養 護		平2平6					平	
75	豊 浦 養 護							9	
76	萩 養 護		平6						
77	下 関 商 業								
78	高 水							62	
79	柳 井 学 園		平6					63	
80	聖 光						平2		
81	山口県桜ヶ丘								
82	三田尻女子							平7平9	
83	多々良学園								
84	中 村 女 子	63					平2平5		
85	野 田 学 園	63							
86	山口県鴻城						平9		
87	宇 部 鴻 城						平7	平9	
88	宇 部 女 子								
89	美 祢 中 央								
90	香 川						平1平5		
91	サ ビ エ ル								
92	早 鞆								
93	下関女子短期学院	62 63	平4			平7		平8	
94	長 門						平6		
95	萩 光 塩 学 園								

オベレック……………木月 京子

演劇……………のんた・宇部芸術座・海峡座

金管合奏……………東京金管五十奏団

62～平9……………実施年度

※印……………平成10年度実施予定

《自主事業》 山口県交響楽団演奏会

奈古高等学校3年 藤田喜美恵

きのうのオーケストラはなんだか感動した。私は今まで、オーケストラとかいうものにあんまり興味がなかったけど、きのうを境に変わりました。

演奏が始まると、なんだか鳥肌がたって、こんなに自分がのめり込んでしまうなんてとビックリしてしまいました。

指揮者の体験なんかもさせてもらったり、私達を本当に楽しませてくれました。今回のことで指揮者がどれだけ大切なのか分かりました。指揮する人にどれだけ音楽的なものがあるかで、その曲は全然ちがうものになってしまうりするんだなんて。私の知ってる音楽なんて本当に少しの知識で、だけどそれ以上のものがあることも知ることができ良かったです。

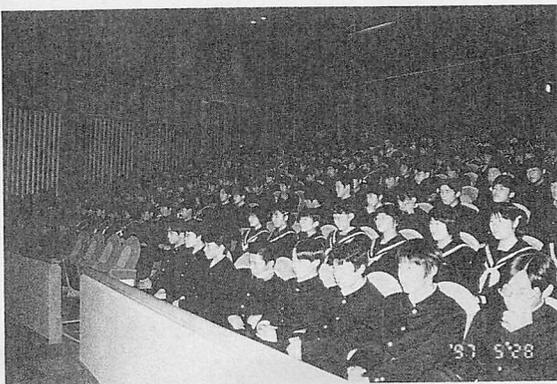
今度からは今まで以上に楽しんで音楽を知っていったら、ものすごくいいだろうなあと思います。

奈古高等学校2年 刀衾しのぶ

交響楽団の演奏を聴くのは初めてではなかったのですが、とっても音響の良いホールできくことができ本当にうれしかった。今回の演奏会では有名な曲ばかりだったので、とても楽にたのしみながら鑑賞することができた。クラシックというと、なんだか堅苦しくて、親しみにくいような気がするけど、本当は私達の身近な所でけっこう流れていると思った。テレビのCMなんかでもオーケストラの曲は使われていて、この度演奏されたブラームスのハンガリー舞曲は誰もが聞いたことのある曲だと思った。

そして私は、その後のラデッキー行進曲の指揮をさせてもらうことになった。こんな交響楽団の指揮を出来ることはめったにないのですばらしい経験になった。とても緊張して手が思う様に動かなかったが、演奏者の方々は私の指揮にあわせてステキに演奏して下さった。いっけん簡単そうに見える指揮だけど、この人のうでによって演奏は良くも悪くもなるのだと思った。

私は今、ブラスバンド部でフルートをやっているから、こんな楽団の中でいっしょに演奏できたらいいなと思った。将来この楽団に入れたらいいです。夢のまた夢ですけど…!



奈古高等学校 2年 花岡瑞江

どんな演奏が聞けるのか楽しみだった。ほとんど知ってる曲で、聞いててすごくおもしろいと思った。何曲も聞いたが、飽きることもなくてよかった。ナマで聞くと、きいたことのある曲でも、迫力があって全然ちがっていた。一つの楽器でいろんな音が出せるということも分かったし、楽器の名前なんかも知ることができた。

私は、はじめ「あまりおもしろくないだろうな」

と思っていたけど、聞いてみるとすごくおもしろくて、終わってからまだ聞きたいと思った。2時間あったけど全然飽きなくて、逆に、とても楽しかったから、あっという間の2時間だった。あと、指揮者によって曲の速さなどが変わってくるということが分かった。

山口県交響楽団の演奏をナマで聞くことができてよかったと思う。すごく楽しかったので「来年も聞ければいいな」と思った。

《自主事業》 シルクロード悠久の響き ～二胡と中国琵琶～



『見て、聞いて、
感じたこと』

美祢高等学校 1年 篠村 陽子

姜さんの二胡と、楊さんの中国琵琶のすばらしい音が、体育館のすみずみまで響きわたった時にはすでに、ついさっきまで聞こえていた雑音は、聞こえてきませんでした。姜さんと楊さんの創りだす音に、ただただ圧倒されて、一曲目が終わってしまいました。二曲目に入って、あることに気付きました。姜さんも楊さんも、顔や体全部で曲を奏でていました。音が聞こえてこなくても、姜さんや楊さんの顔を見ていれば、曲の感じが伝わってきそうなくらいでした。

四曲目に入ってから、やっと落ち着いて曲を聞くことができはじめました。それまでは、二人のすばらしさに興奮していたからです。落ち着いて曲を聞くようになってからは、音のすばらしさに感動しました。特に、音の強弱がすばらしく、二胡と中国琵琶の特性が見事に生かされていると思いました。曲によっては、動物の鳴き声をまねたりしたところがあって、そういうところも、すごくその動物の感じができていたし、とてもすばらしい演奏会でした。

<自主事業>木月京子・オペレッタの世界

日置農業高等学校 生活科学科

2年 中東 美加

音楽・歌と聞くと「楽しい・暖かい」というイメージを私は持っています。今回の木月京子先生とセルジュ染井先生のコンサートはそのイメージどおりのものでした。

コンサートの当日、私は友人とうまくいかず、暗い気持ちでした。そんな私の気持ちを変えて下さったのが、『おはようございます。』という木月先生の明るい声でした。私は初めて会った人と話すことが苦手ですが、先生と一緒に歌を歌ったことで心が通じ合ったような気がしました。言葉で

会話することは苦手でも、歌で会話できることを知り、うれしくなりました。友人とも「今日、よかったね」という会話がきっかけで仲直りすることができ、改めて、歌が人の心に与える影響の大きさと、歌の素晴らしさを実感しました。

私は今までにこのようなコンサートに行ったことがなく、歌とふれあう機会も少なかったのですが、木月先生、セルジュ先生に出会い歌が大好きになりました。これからは私も「明るさと暖かさ」をいつも忘れず、多くの人と一緒に歌を歌い続けたいと思います。



《自主事業》 巡回演劇公演

演劇『にんじん』を観劇して

三田尻女子高等学校

- * 主題が「親子のきずな」ということで、初め、お母さんはママ母なのかと思ったけど、本当の母親だったので、こんな親子もいるのかなあと驚かされました。そして、自分から相手に気持を伝えていかなとお互い分かり合うことができないなあと思いました。後ろの舞台が変わらなかったの、演技力で勝負という感じで、とても上手でした。
- * ちょっと考えさせられるものがありました。「にんじん」君とお父さんとお母さんのちょっとしたことで、こんな形になってしまったのですが、このストーリーとしてはみんな3人とも少しずつ素直になって幸せになるだろうと思いました。お父さんの言葉の一つ一つに味があって、ドッシリとしていて好きでした。さらに声がさすがによくとおるなと思いました。ありがとうございます。
- * 家族とは絶対に愛しい、通じあっているものだと思っていたが、舞台の中の家族は違っていた。どうして？ Why? とか色々考えた。しかし、なんというか目では見えない愛を感じたような……。今わたしが思うには、自分の家族だけは愛をひしひしと感じさせるような家族にしたい、絶対壊してはいけないものだと感じている。
- * 一つ一つのセリフにとっても大きな動作とかがあって、劇というより、自分自身の中にあるような感じでした。私は後ろの方にいましたが、よく声が聞こえてきて驚きました。(声を張り上げて言ってるわけでもなさそうなのに)
- * こういうふうに通じあっているのを見たのは初めてで、一つの劇をするのに、時間や人がたくさん要るんだなと思いました。またいつか機会があったら見てみたい、心に残る劇が観れて良かったです。
- * 劇を観る前に、他の国の昔の演劇についてのお話しが聞けて良かった。
- * 自分が「にんじん」の立場に立った時、あんなにやさしい気持ちでいられるだろうと思った。私の母親があんな人だったら、わたしはすでに家を出ていたと思う。
- * 「にんじん」は中学の頃読みました。その時、すごく残酷な話だなと思いました。義母だったとしたら少しは分からなくもないが、実母が自分の息子をいじめるなんてひどい。しかも末っ子で一番かわいいはずなのに…。本で読んだ時よりも演劇で見ると迫力があって、すごく恐かった。本当であってはいけないことだと思った。
- * 人の気持というのは本当に難しいものです。好き嫌いなどは別として微妙なものです。今日、何か大切なことが分かったような気がします。とてもやさしい気持になれました。楽しくていい話でした。
- * この物語を見て、「親子愛」について考えさせられました。わたしは父からも母からも「愛されているのかな」と少し考えてしまいました。「にんじん」は「自分はお母さんに愛されていない。」と思い込んでいたみたいだけど、そうではないと思いました。「にんじん」はお父さんからもお母さんからも愛されているなと思いました。とても温かいやさしい劇で楽しかったです。ただ最後にお母さんと仲良くなったのかが分からなかったのを知りたかったです。

- * この劇を見て、家族や親子、夫婦には気持ちが大切だと分かりました。きっとこの話で「にんじん」のお母さんが「にんじん」にあたるのは、お母さんは「にんじん」にかまってほしかったのだと思います。つまり何に対してもコミュニケーションは大切だと分かった。とても良い劇でした。
- * 母親を嫌う子どもを本当に理解している父親の話や、自分の思いを母親の前で素直になれず話すことのできない子どものことが、まさに今のわたしにピッタリだと思った。
- * 舞台を作るのには沢山の人によって作ることが分かった。今回は音について聞き、一つの音にもいろいろな音を組み合わせると一つの音にすることが分かった。一つの場面でいろいろな工夫がなされているのが分かり、とても良かったです。
- * この劇を見て、内容的に心に訴える何かを感じたのである。この劇で「にんじん」という話を初めて知りました。彼の家はわたしから見て全然恵まれてはいないが、そんな背景で「にんじん」が一人力強く生きていく姿がうまく表現されていたと思います。
- * おもしろかった所は笑えるおもしろさとは違って、自分も話の中に入っていけるおもしろさが

あったのが良かった。

- * 「にんじん」にはちゃんと理解してくれる心強い父がいて良かったと思う。また劇を見て、子どもの事を心配しない親はいないということが分かった。親子でしっかり話しをした方がいいと思った。お母さんが最初のうち嫌だったけど、でもやっぱり「にんじん」の事が大切だったし、ちょっとした接し方によって子ども(人)は心に受けるダメージが大きいということが分かったような気がする。
- * 先ず、音響の方と演出の方の話を聞いて、お芝居の奥深さと裏方(スタッフ)の人たちの大変さが分かりました。
- * 普段私たちは家族のことなんて、あたりまえの存在だから深く考えないでいるけど、この劇を見て改めて家族の存在とその大切さを考えてみようかと思いました。
- * すごく上手で良かった。音響のことも勉強になった。一つの音に色々組み合わせると、変化のある音が出ることが分かった。これからも頑張ってください。
- * わたしは高校になって演劇部に入りました。まだまだ不勉強なところもありますが、「海峡座」のみなさんを見習って、頑張ります。今日はありがとうございました。



全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧

区 分	学校数	小 説	評論・研究	詩	短 歌	俳 句	文芸部誌	応 募 点 数
1	北海道	5	3(3)		7(7)		1(1)	11(11)
2	青 森	29	15(18)		65(290)	71(1,358)	181(1,498)	333(3,165)
3	岩 手	36	13(128)	1(5)	24(629)	184(2,736)	106(7,175)	330(10,675)
4	宮 城	2	2(2)		1(1)	2(80)	3(80)	9(164)
5	秋 田	16	1(21)		22(119)	54(90)	42(70)	123(304)
6	山 形	3	2(9)	1(8)			1(1)	4(18)
7	福 島	5	6(6)		15(15)	6(6)	11(11)	41(41)
8	茨 城	6	1(1)		19(19)	27(36)	3(3)	52(61)
9	栃 木							0(0)
10	群 馬	12	8(8)	1(1)	16(29)	3(3)	31(44)	61(87)
11	埼 玉	10	13(13)	1(1)	18(18)	6(6)	15(15)	57(57)
12	千 葉	11	5(5)		4(4)	12(12)	12(12)	36(36)
13	東 京	19	7(7)	7(7)	46(102)	36(1,122)	83(1,889)	183(3,131)
14	神 奈 川	14	7(21)	2(215)	27(37)	9(9)	6(6)	52(289)
15	山 梨	13	2(48)		3(176)	14(176)	11(513)	30(913)
16	新 潟	2			5(5)	5(35)		10(40)
17	富 山	4	4(9)		6(21)	90(378)	12(15)	113(424)
18	石 川	4	2(6)		5(5)	20(33)	15(23)	43(68)
19	福 井	8	4(23)		6(92)	13(133)	9(117)	32(365)
20	長 野	2			1(1)	697(726)		698(727)
21	岐 阜	2	1(1)		3(3)		3(3)	8(8)
22	静 岡	10	4(15)		16(91)	39(1,032)	60(1,072)	124(2,215)
23	愛 知	5	7(7)		13(13)	3(3)	9(9)	33(33)
24	三 重							0(0)
25	滋 賀	1			3(3)			3(3)
26	京 都	2	1(1)		3(3)			4(4)
27	大 阪	4	1(1)		6(6)	3(3)	3(3)	15(15)
28	兵 庫	7	2(7)		5(22)	6(6)	1(1)	14(36)
29	奈 良	4	1(1)		3(3)	6(8)		10(12)
30	和 歌 山	3	2(2)		11(11)		9(9)	23(23)
31	鳥 取							0(0)
32	鳥 根							0(0)
33	岡 山	6	5(5)		4(4)		1(1)	10(10)
34	広 島	3	3(3)		5(16)		1(1)	9(20)
35	山 口	4	20(20)		13(13)	18(339)	15(336)	68(710)
36	徳 島	3	2(6)		12(30)	9(9)	1(1)	24(46)
37	香 川	3		r	1(1)		3(3)	5(5)
38	愛 媛	2			2(11)		1(1)	3(12)
39	高 知	1	1(1)		1(1)			2(2)
40	福 岡	7	2(2)		17(17)	10(10)	24(24)	54(54)
41	佐 賀							0(0)
42	長 崎	3	1(1)	v	4(4)		1(1)	6(6)
43	熊 本							0(0)
44	大 分	11	7(25)		9(72)	43(115)	39(111)	98(323)
45	宮 崎							0(0)
46	鹿 児 高	3	4(4)		19(19)	9(9)	1(1)	33(33)
47	沖 縄	9	3(3)		19(112)	6(49)	222(1,534)	252(1,700)
合 計		294	162(433)	13(237)	459(2,205)	1,401(8,522)	927(14,575)	3,016(25,846)
応 募 総 数			433	237	2,205	8,522	14,575	25,846

※ () は県又は学校段階での応募数を含めた数

入 賞 作 品 数 一 覧

区 分	応募点数	応募者数	文部大臣 奨 励 賞	読 賣 新 聞 社 賞	最 優 秀 賞	優 秀 賞	優 良 賞	入 選 (奨 励 賞)	合 計
小 説	162 (151)	149 (144)	☆		1 (1)	4 (6)	6 (5)	6 (5)	17 (18)
文 芸 評 論 文 芸 研 究	13 (11)	13 (11)		☆		1		3 (2)	4 (2)
詩	459 (513)	315 (372)	☆		1 (1)	4 (6)	8 (11)	10 (15)	23 (33)
短 歌	1,401 (971)	548 (372)			1 (1)	5 (6)	13 (10)	13 (15)	32 (32)
俳 句	927 (1,013)	412 (496)		☆	1 (0)	5 (6)	10 (10)	14 (15)	30 (31)
文 芸 部 誌	54 (67)	54 (67)	☆		1 (1)	2 (3)	3 (5)	5 (6)	11 (15)
合 計	3,016 (2,726)	1,491 (1,447)	3	2	5 (4)	21 (26)	40 (42)	51 (58)	117 (130)

※ () は昨年度

部 門 別 応 募 状 況 一 覧

区 分	応募点数	応募者数	学 年 別			男 女 別		合 計
			1	2	3	男	女	
小 説	162 (151)	149 (144)	37 (32)	67 (56)	45 (56)	39 (32)	110 (112)	433 (361)
文 芸 評 論 文 芸 研 究	13 (11)	13 (11)	1 (1)	8 (6)	4 (4)	3 (2)	10 (9)	237 (20)
詩	459 (513)	315 (372)	71 (109)	122 (128)	122 (135)	86 (70)	229 (302)	2,025 (4,241)
短 歌	1,401 (971)	548 (372)	294 (94)	129 (228)	125 (102)	164 (89)	384 (335)	8,522 (6,160)
俳 句	927 (1,013)	412 (496)	99 (161)	158 (139)	155 (196)	126 (171)	286 (325)	14,575 (16,049)
文 芸 部 誌	54 (67)	54 (67)						54 (67)
合 計	3,016 (2,726)	1,491 (1,447)	502 (397)	484 (557)	451 (493)	418 (364)	1,019 (1,083)	25,846 (26,898)

※数字は事務局受付分、() は昨年度

応 募 状 況 一 覧

回 数	年 度	都 道 府 県	応 募 校 (校)	応 募 点 数 (点)	応 募 者 数 (人)	応 募 総 数 (点)
第 1 回	昭和61年	17	110	890	630	
第 2 回	昭和62年	30	202	1,977	1,297	
第 3 回	昭和63年	35	210	1,830	1,235	
第 4 回	平成 1 年	39	235	1,990	1,347	
第 5 回	平成 2 年	41	240	2,112	1,286	
第 6 回	平成 3 年	41	269	2,533	1,595	15,842
第 7 回	平成 4 年	42	282	2,798	1,531	16,370
第 8 回	平成 5 年	41	290	1,919	1,173	17,512
第 9 回	平成 6 年	37	271	2,834	1,643	19,143
第 10 回	平成 7 年	43	293	5,225	2,638	21,214
第 11 回	平成 8 年	40	278	2,726	1,447	26,898
第 12 回	平成 9 年	40	294	3,016	1,491	25,846

※応募総数は、各都道府県における応募数

文 芸 コ ン ク ー ル 受 賞 作 品 (山 口 県)

小説部門	入 選	県立山口高等学校 1年 村田佳奈美	『暮れかけた街から』
	入 選	県立防府高等学校 1年 大久保一基	『無数の懐帰』
俳句部門	優秀賞	宇部女子高等学校 2年 富賀真由美	『天の川…』
	優良賞	宇部女子高等学校 2年 村岡 有紀	『白球の…』
短歌部門	入 選	宇部女子高等学校 3年 竹下 仁美	『银杏の…』
詩 部 門	優良賞	県立防府高等学校 2年 石川 涼子	『姉の着物』

平成9年度 山口県高等学校文化連盟事業報告

月	日	事	業	会 場
4	14 25		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	9 20 28	山口県交響楽団演奏会	高文連評議委員会 全国高等学校文化連盟評議委員会	下関市 こまばエミナス 奈古高校
6	1 5 13 14~15 15 26 27	県高校総合文化祭(将棋) 巡回演劇「海峡座」 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭(器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング) 県高校総合文化祭(日本音楽、吟詠剣詩舞) 山口県交響楽団演奏会 建華姜・楊宝元ジョイントコンサート		中国新聞山口支社 三田尻女子高校 シンフォニア岩国 シンフォニア岩国 徳山市文化会館 宇部養護学校 美祿高校
7	8		中国地区高文連関係者合同会議	岡山ロイヤルホテル
8	6 7~11 8 7~11 30~31	平成8年度「高文連」発行 全国高校総合文化祭 第8回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟拡大理事会 全国高等学校文化連盟各専門部会	奈良県 奈良県 奈良県 東京都 国立劇場
9	18 29	巡回演劇「海峡座」 木月京子・オペレッタの世界		厚狭高校 日置農業高校
10	9 3 4~5 26	巡回演劇「宇部芸術座」 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭(演劇) 県高校総合文化祭(囲碁)		宇部鴻城高校 鹿野高校 下関市文化会館 防府高校
11	1~3 1 5 9 7~9 17	全国高校総合文化祭プレ鳥取大会(展示関係、合唱) 巡回演劇「宇部芸術座」 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭(放送) 県高校総合文化祭(美術・工芸、書道、写真)	第1回高文連理事長会	鳥取県 萩工業高校 県鴻城高校 ニューメディアプラザ山口 徳山市美術博物館 山口中央高校
12	20	平成9年度「高文連会報」発行		高知県
1	29~30		全国高等学校文化連盟研究大会	
2	5 9 19		全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都フロンティオン青山 山口中央高校 山口中央高校
3	31 31	第16回器楽管弦楽スプリングコンサート 「山口県高文連10年の歩み」発行		下関市
<p>【その他】 県高校総合文化祭準備(実行)委員会 総合開会式・音楽関係4部門(岩国高校) 展示関係3部門(下松高校) 日本音楽、吟詠剣詩舞部門(徳山高校) 演劇部(下関市文化会館) 囲碁部(防府高校) 放送部(山口農業高校) 将棋部(下松高校) ----- 主管校において開催</p> <p>各専門部会 ----- 部会長校を中心に開催 各専門部研修会 ----- 県下各地において開催</p>				

山口県高等学校文化連盟 【共催】 第1回やまぐち県民文化祭・第36回山口県吹奏楽コンクール
 第1回やまぐち県民文化祭・第52回山口県合唱コンクール山口県大会
 第21回アンサンブルコンテスト山口県大会

【後援】 盲・聾・養護学校文化祭美術作品展示会
 第10回全日本マーチングフェスティバル山口県大会

平成9年度 山口県高等学校文化連盟 会計決算書

〔収入の部〕

(単価:円)

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	3,392,354	3,392,354	0	
会 費	18,710,000	18,512,100	△ 197,900	全日制 定時制・盲・聾・養 350円 50円
学 校 負 担 金	145,500	141,900	△ 3,600	36学級減
補 助 金	6,939,400 (内訳) 2,200,000 4,665,000 74,400	6,942,500 (内訳) 2,200,000 4,665,000 77,500	3,100 (内訳) 0 0 3,100	県総文祭県委託金 全総文祭県補助金 全国高文連補助金
調 整 基 金	0	0	0	利 息
雑 収 入	9,746	16,145	6,399	
合 計	29,197,000	29,004,999	△ 192,001	

〔支出の部〕

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
〔運 営 費〕	1,300,500	1,282,753	17,747	
事務用品費	(内訳) 250,000	(内訳) 255,616	(内訳)△ 5,616	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	380,000	356,037	23,963	電話 郵便 運送料等
分 担 金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	246,400	247,000	△ 600	全国高文連分担金
	414,000	414,100	0	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
〔会 議 費〕	1,995,000	1,621,124	373,876	
	(内訳) 460,000	(内訳) 324,864	(内訳) 135,136	県内会議(企画運営委員会 専門部理事長会)
	737,000	595,470	141,530	全国会議(理事長会 研究大会 部会長等会議)
	789,000	695,770	93,230	事務局旅費(会長、事務局員の県内・県外会議等)
	9,000	5,020	3,980	監査旅費
〔事 業 費〕	20,931,500	19,540,545	1,390,955	
県総文祭	(内訳) 8,082,000	(内訳) 8,081,840	(内訳) 160	総合開会式 各部門大会開催費
全総文祭	6,870,000	5,703,235	1,166,765	生徒旅費・引率教員旅費539万 運送費31万
自主事業	2,274,500	2,274,500	0	10公演
大会補助金	50,000	50,000	0	高文連(特殊教育)
専門部会費	1,705,000	1,480,970	224,030	研修費 通信費
印刷費	1,950,000	1,950,000	0	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 10年誌
調 整 基 金	3,500,000	3,500,000	0	
〔予 備 費〕	1,470,000	808,272	661,728	10年誌 トランシーバー 消費税2% 鳥取大会運営費
合 計	29,197,000	26,752,694	2,444,306	

(収入) 29,004,999円 - (支出) 26,752,694円 = (繰越) 2,252,305円

平成9年度 調整基金会計決算書

(単価:円)

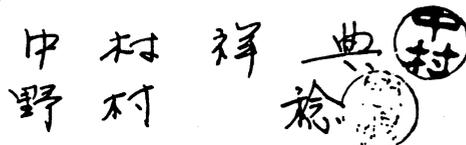
前年度末現在高	今年度調整基金への繰入	今年度末残高
4,000,000	3,500,000	7,500,000

上記の通り相違ありません。

平成10年4月13日

監 事

監 事



 中 村 祥 典 (印)

 野 村 稔 (印)

平成10年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画

月	日	事	業	会 場
4	13 21		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	26 27 30 31	建華美・楊宝元ジョイントコンサート 建華美・楊宝元ジョイントコンサート 県高校総合文化祭(将棋)	全国高等学校文化連盟評議委員会	東京都フロンティア青山 徳山高校(定時制) 盲学校 中国新聞山口支社
6	6 19 20~21 21 24 29 (下旬)	巡回演劇「のんた」 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭(器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング) 県高校総合文化祭(日本音楽、吟詠剣詩舞) 田宮堅二トランペットコンサート 山口県交響楽団演奏会 平成9年度「高文連」発行		岩国養護学校 サンビームやない サンビームやない 山口南総合センター 鹿野高校・山口中央高校 安下庄高校
7	9		中国地区高文連関係者合同会議	広島県
8	7~11 8 7~11 29~30	全国高校総合文化祭 第9回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟拡大理事会 全国高等学校文化連盟各専門部会	鳥取県 鳥取県 鳥取県 東京都 国立劇場
9	24 25	巡回演劇「のんた」 巡回演劇「宇部芸術座」		久賀高校 宇部西高校
10	13 24~25 25 30	舞台芸術ふれあい教室(ミュージカル) 県高校総合文化祭(演劇) 県高校総合文化祭(囲碁) 山口県交響楽団演奏会		華陵高校 山口南総合センター 防府高校 防府西高校・宇部中央高校
11	(上旬) 8 6~8 10 30	県高校総合文化祭(放送) 県高校総合文化祭(美術・工芸、書道、写真) 山口県交響楽団演奏会 巡回演劇「海峡座」	第1回高文連理事長会	山口中央高校 ニューメディアプラザ山口 萩市民館・サンライフ萩 徳佐高校 美祿工業高校
12	(中旬)	平成10年度「高文連会報」発行		
1	28~29		全国高等学校文化連盟研究大会	福島県
2	4 (上旬) (下旬)		全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都フロンティア青山 山口中央高校 山口中央高校
3	(下旬)	第17回器楽管弦楽スプリングコンサート		
<p>【その他】 県高校総合文化祭準備(実行)委員会 総合開会式・音楽関係4部門(柳井高校) 展示関係3部門(萩光塩学院高校) 日本音楽、吟詠剣詩舞部門(県鴻城高校) 演劇部門(山口中央高校) 囲碁部門(防府高校) 放送部門(山口農業高校)</p> <p style="margin-left: 150px;">} 主管校において開催予定</p> <p>各専門部会 部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会 県下各地において開催予定</p>				

平成10年度 山口県高等学校文化連盟 会計予算書

〔収入の部〕

(単価:円)

区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	2,252,305	3,392,354	△1,035,459	
会 費	18,220,000	18,710,000	△ 490,000	全日制 350円×51,900人 定時制・盲・聾・養 50円×1,100人
学 校 負 担 金	141,900	145,500	△ 3,600	36学級減
補 助 金	6,562,000 (内訳) 2,200,000 4,362,000 0	6,939,400 (内訳) 2,200,000 4,665,000 74,400	△ 377,400 (内訳) 0 △ 303,000 △74,400	県 総 文 祭 県 委 託 金 全 総 文 祭 県 補 助 金 全 国 高 文 連 補 助 金
調 整 基 金	0	0	0	
雑 収 入	20,205	9,746	10,459	利息
合 計	27,196,000	29,197,000	△2,001,000	

〔支出の部〕

区 分	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△減)	摘 要
〔運 営 費〕	1,315,000	1,300,500	△ 14,500	
事務用品費	(内訳) 255,000	(内訳) 250,000	(内訳) △ 5,000	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	388,000	380,000	△ 8,000	電話 郵便 送料等
分 担 金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	247,000	246,400	600	全国高文連分担金
	415,000	414,100	900	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
〔会 議 費〕	1,847,000	1,995,000	△ 148,000	
	(内訳) 440,000	(内訳) 460,000	(内訳) △20,000	県内会議 (企画運営委員会 専門部理事長会)
	616,000	737,000	△121,000	全国会議 (理事長会 研究大会 部会長等会議)
	782,000	789,000	△7,000	事務局旅費 (会長、事務局員の県内・県外会議等)
	9,000	9,000	0	監査旅費
〔事 業 費〕	19,319,000	20,931,500	△1,612,500	
県 総 文 祭	(内訳) 7,734,000	(内訳) 8,082,000	(内訳) △325,000	総合開会式 各部門大会開催費 (別添)
全 総 文 祭	6,120,000	6,870,000	△750,000	生徒旅費436万 引降教員旅費142万 運送費34万
自 主 事 業	2,440,000	2,274,500	165,500	12公演
大 会 補 助 金	50,000	50,000	0	高文連(特殊教育)
専 門 部 会 費	1,685,000	1,705,000	△20,000	研修費 通信費
印 刷 費	1,290,000	1,950,000	△660,000	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 他
調 整 基 金	3,000,000	3,500,000	△ 500,000	
〔予 備 費〕	1,715,000	1,470,000	245,000	県総文祭総合開会式予備 全総文祭新聞部門旅費 高演協 (中国地区大会)
合 計	27,196,000	29,197,000	△ 2,001,000	

平成10年度 調整基金会計予算書

(単価:円)

前年度末現在高	今年度調整基金への繰入	今年度末残高
7,500,000	3,000,000	10,500,000

山口県高等学校文化連盟規約

平成元年4月1日改正
平成2年4月1日改正
平成3年4月1日改正
平成4年4月1日改正
平成6年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成9年4月1日改正

第1章 総 則

(名称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1)山口県内の高等学校による文化行事の開催に関する事業
- (2)全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3)芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業
- (4)高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5)高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6)その他前条の目的の達成に必要な事業

(組織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、聾学校及び養護学校をもって組織する。

2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

2 演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠、剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送の各部門とする。

第2章 役 員

(役員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| (1) 会 長 1人 | (4) 支部長 7人 |
| (2) 副会長 若干人 | (5) 専門部会長 13人 |
| (3) 評議員 95人以上
(会長及び副会長を含む。) | (6) 専門部理事長 13人 |
| | (7) 監 事 2人 |

(役員を選出)

第8条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1)会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2)評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3)支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。

(4) 監事は、評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

(1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。

(3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。

(4) 支部・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。

(5) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

(1) 評議員会 (2) 企画運営委員会 (3) 理事長会

2 会議の議長は、会長がこれに当たる。

3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。

4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 規約の制定及び改廃に関する事項 (3) その他連盟の運営に係わる重要事項

(2) 予算及び決算に関する事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 評議員から委任された事項 (3) その他連盟の運営に係わる軽易な事項

(2) 会務の運営及び執行に関する事項

2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。

3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。

4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 企画運営委員会から委任された事項 (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第5章 事 務 局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雑 則

第21条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和62年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟 諸規程

[会計規定]

昭和62年4月1日制定

平成4年4月1日改正

平成5年4月1日改正

平成8年4月11日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。

第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。

第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。

第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。

第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、会費を納入するものとする。

<会費内訳> 各高等学校生徒一人当たり1年に (全日制生徒) 350円

(定時制、盲、聾、養護学校高等部生徒) 50円

各学校負担金(定時制、盲学校、聾学校、及び養護学校は除く)

学級数×100円

第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[事務局規程]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

- 第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。
- 第2条 事務局に次の職員を置く。
- (1) 事務局長
 - (2) 事務局員 ア 総務係
 イ 庶務係
 ウ 会計係
- 第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。
- 第4条 事務局員総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書・調査研究に関する事項を分掌する。
- 第5条 事務局員庶務係は、事務局長の命を受け、庶務に関する事項を分掌する。
- 第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。
- 第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。
- 第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。
- 第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[表彰規程]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

平成元年4月1日改正

平成2年4月1日改正

平成6年4月1日改正

平成8年4月1日改正

- 第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

- 第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

- (1) 文化功労賞
- (2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの。

(文化功労賞)

- 第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

- 第4条 受賞人員は在籍生徒数300名に対し1名の割合を原則とする。

- 第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

- 第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 人格、識見共に優秀と認める者。

(2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県文化連盟加盟校の生徒であって、13部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、13部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規定は、昭和62年4月1日から実施する。

[旅費支給基準]

昭和62年4月1日制定

昭和63年4月25日改正

平成元年4月1日改正

- 1 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
- 2 県総文の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。ただし、その際の役員日当は1,200円とし、宿泊費は5,000円(内切り)とする。
- 3 全国高校総文祭に関する旅費は、
引率教員は、山口県旅費規程に準じて支給する。
生徒は、[交通費実費(学割・団体割引) + 宿泊費(大会規定料金) × 2泊] × 1/2とする。
※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
- 4 専門部会長及び支部長が、県高等学校総合文化祭運営協議会(顧問会議、支部長会議等)を開催する場合は、出席者の在籍する各学校でこれを負担するようお願いする。

平成9年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 部 門	所 属 校
会 副 長 会 長 〃 〃	森 本 絃 史 吉 村 洋 輔 天 野 勝 範 宮 本 勝 弘		山 口 中 央 高 校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 香 川 高 校
支 部 長 〃 〃 〃 〃 〃	吉 村 洋 輔 矢 倉 茂 生 桂 雄 三 森 本 絃 史 木 村 良 樹 松 井 忠 夫 浜 田 紀 郎	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山 口 中 央 支 部 宇 部 支 部 下 関 南 支 部 萩 高 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山 口 中 央 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	今 橋 靖 刀 松 井 本 慎 藤 本 垣 良 夫 檜 縄 田 研 吾 桂 休 研 三 (今 竹 桂 部 靖 刀 松 竹 本 藤 村 義 三 中 村 勇 行 郎 夫	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マ ー チ ン グ バ ン ド 部 門 ト ン ト フ リ ン グ 部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 華 陵 高 校 宇 部 女 子 高 校 徳 山 高 校 (休 部) 厚 狭 高 校 山 口 高 校 山 徳 山 高 校 防 府 高 校 山 口 農 業 高 校 下 松 高 校
専 門 部 理 事 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	三 藤 真 人 松 永 忠 雄 石 島 栄 栄 和 田 村 道 慈 花 村 村 加 南 河 (休 島 部 信 元 庄 古 屋 川 元 明 藤 井 口 秀 幸 青 弘 中 敏 子 之	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マ ー チ ン グ バ ン ド 部 門 ト ン ト フ リ ン グ 部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 華 陵 高 校 宇 部 女 子 高 校 徳 山 高 校 (休 部) 厚 狭 高 校 山 口 高 校 山 徳 山 高 校 防 府 高 校 山 口 農 業 高 校 下 松 高 校
監 事 〃	中 村 祥 典 野 村 村 稔		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 庶 務 会 計	中 邑 立 夫 角 中 悦 太 大 黒 昌 郎 子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

平成10年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 専 門 部	所 属 高 等 学 校
会 長 副 会 長 〃 〃	森 本 紘 史 田 中 功 小 川 達 朗 五 十 部 益 一		山 口 中 央 高 校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 中 村 女 子 高 校
支 部 長 〃 〃 〃 〃 〃	田 中 功 河 野 行 桂 中 三 森 本 紘 史 木 村 樹 今 橋 良 樹 浜 田 靖 刀 紀 郎	岩 柳 德 山 宇 下 長 国 井 山 防 部 関 北 支 支 支 支 支 部 部 部 部 部	岩 柳 德 山 宇 下 萩 国 井 山 中 央 南 高 高 高 高 高 高 校 校 校 校 校
専 門 部 会 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	松 本 真 也 今 橋 本 刀 藤 本 慎 流 田 正 士 縄 田 研 吾 桂 (休 部) 木 村 良 樹 竹 田 信 義 桂 西 雄 三 芳 藤 靖 幸 竹 中 村 祥 朗 典	演 劇 部 門 器 樂 ・ 管 弦 樂 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 樂 部 門 マ ー チ ン グ バ ン ド ・ パ ン ト フ リ ン グ 部 門 日 本 音 樂 部 門 吟 詠 劍 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 華 陵 高 校 宇 部 女 子 高 校 德 山 高 校 (休 部) 宇 部 高 校 山 口 高 校 德 山 高 校 防 府 高 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
専 門 部 理 事 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	三 藤 真 人 松 永 忠 雄 石 島 采 道 和 田 村 慈 加 花 河 (休 部) (庄 古 島 屋 川 口 木 中 藤 井 青 弘) 南 子 信 元 明 秀 幸 敏 之	演 劇 部 門 器 樂 ・ 管 弦 樂 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 樂 部 門 マ ー チ ン グ バ ン ド ・ パ ン ト フ リ ン グ 部 門 日 本 音 樂 部 門 吟 詠 劍 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 華 陵 高 校 宇 部 女 子 高 校 德 山 高 校 (休 部) 宇 部 高 校 山 口 高 校 德 山 高 校 防 府 高 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
監 事 〃	中 野 村 祥 典 村 村 稔		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 庶 務 会 計	中 角 立 夫 大 邑 悦 太 岩 中 黒 尾 昌 清 尾 清 子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定

向川 栄美 作詞

乗松 美紀 作曲



1. てをのばせば ほら きっとだれかがささえてくれる
 2. よびかければ ほら きっとだれかがこたえてくれる



み-わたせ - ば ほら なかまがいつでもそばにいる きみ
 ころをひらけ ば ほら なかまがいつでもまっている きみ



は ひとりじゃない さあ ある きだ そ う
 は ひとりじゃない さあ は ばた こ う



ほくらのぶんか を つくる ため - に
 ほくらのぶんか を きず く ため - に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きっと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きっと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間はいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ はばた 翔こう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟「高文連」編集委員

(各 部 門)

合 唱	石 島 栄子	(野田学園高等学校)
マーチングバンド バトントワリング	花 村 慈照	(宇部女子高等学校)
器楽・管弦楽	松 永 忠雄	(県立下関南高等学校)
吹 奏 楽	和 田 道明	(県立華陵高等学校)
演 劇	三 藤 真人	(県立厚狭高等学校)
日 本 音 楽	河 村 加南子	(県立徳山高等学校)
美 術・工 芸	庄 島 信基	(県立厚狭高等学校)
書 道	古 屋 元子	(県立山口高等学校)
写 真	藤 川 明德	(県立徳山高等学校)
囲 碁	井 口 秀是	(県立防府高等学校)
将 棋	弘 中 敏之	(県立下松高等学校)
放 送	青 木 幸子	(県立山口農業高等学校)

(事 務 局)

事 務 局 長	中 邑 立夫	(県立山口中央高等学校)
総 務	角 中 悦太郎	(〃)
庶 務 会 計	大 黒 昌子	(〃)

平成9年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高文連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町6-1
山口県立山口中央高等学校内
電話・FAX 0839-32-0818

